

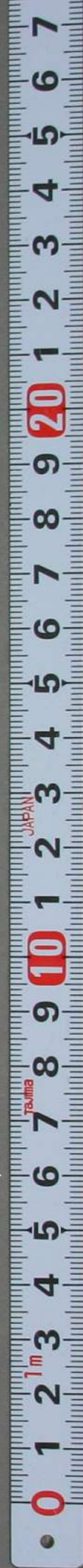
大和名所圖會

松下  
伊勢  
新

山邊郡 城上郡  
城下郡 宇陀郡

四

ル 4  
5326  
4



ル 4  
5326  
4

下伊勢新

伯耆佐藏  
木印

大和名所圖會卷之四

山色里  
在原寺  
引手  
廣高宮  
合衣田墓  
山口社  
布留野  
石上布留社  
水分社  
内山永久寺

城下郡

石上  
有常田  
袋道  
穴穂宮  
千墳  
豐日社  
布留小野  
布留龍  
下郡社  
良因寺

城上郡  
宇陀郡

目錄

石上布留社  
祝田社  
龍王山城  
山口社  
朝日豐前社  
三島社  
布留忘水  
龍福寺  
中川  
大和國寬社

石上沈  
喜殿  
二階堂  
白提社  
夜都伎社  
布留山  
布留川  
都氷室  
春葉龍  
末迎寺

上野北門町拾四番地  
伊勢屋  
岡新共衛

了了  
5(7)  
通符

跡見橋 玉列社 岩坂井 車轉橋 猪飼之 本葉宮 古河新巻 長谷山社 白山権現 藤井 泊瀬川城宮 瀧倉社 遊部川  
 忍坂川 廢慈恩寺 巖櫃本 東田社 泊瀬山 紅桑里 玉葛舊蹟 泊瀬齊宮 蓮華谷 長勝寺 笠山 比賣多波社 富都社  
 舒明天皇陵 龍谷寺 車轉瀧 金平山 初瀬川 鶯山 後成卿塔 長谷寺 道明上人墓 貫之梅 竹林寺 系井社 三宅原  
 恩坂社 泊瀬刺倉宮 迹鷲淵 吉隱陵 度末世 鍋倉山 定家卿塔 護法善神 安養院 與喜山天神 栗栖原 原風里 宮古森

名張川 神孫寺 化田社 金宮長岳寺 緒環塚 三輪山 若宮社 平等寺 弓月嶽 佐野山 瑞籬宮  
 新日社 波多横山 景行天皇陵 穴師社 卷向山 市吹 珠城山 大御輪寺 海松榴市 磯城高圓  
 志紀社 宗像社 纏向山 玄宿庵 校井社 三輪社 著塚 珠城宮 寔馬橋 神波多社 三宅井  
 笠山 名倉白甜瓜 崇神天皇陵 日代宮 三輪町 綱織社 檜原 三輪崎 金刺宮 鳥見丘

廬戸宮 麻氣社 齊宮 恩智社 岐多社 小孫橋系 香水山 御井社 室生山 室生庵 糟川 椿井川 雄嶽 神末川

寺川 韓人沈 服部社 大和川 久須美社 宇陀川 篠畑社 石神殿 龍穴社 血原 屨風嶽 園見嶽 桃股川

法樂寺 朝霧社 飯子沈 村屋社 吹上嶺 宇陀寺 赤人瀆 嶽山 室生寺 漆部郷 門僕社 龜山 八幡社

鏡作社 法貴寺 肥刀邑 鞆負御井 墨坂 宇陀氷室 檜牧川 佛隆寺 味取社 曾爾川 唯嶽 御杖社 源有綱宅

吾妻殿 岡田社 伊那佐山 春日社 大藏寺 男坂

美牟順比社 古市社 宇陀水分社 白鳥社 秋之城 丹生社

日張山 淡古川 林孫 高倉山 阿紀山 竹川

櫻實社 都賀那本社 忍集社 劍主社 松山城

下伊勢新



後撰集

山の色と云

さうり

茶抗

旅と

さうり

ふのされ

向ま

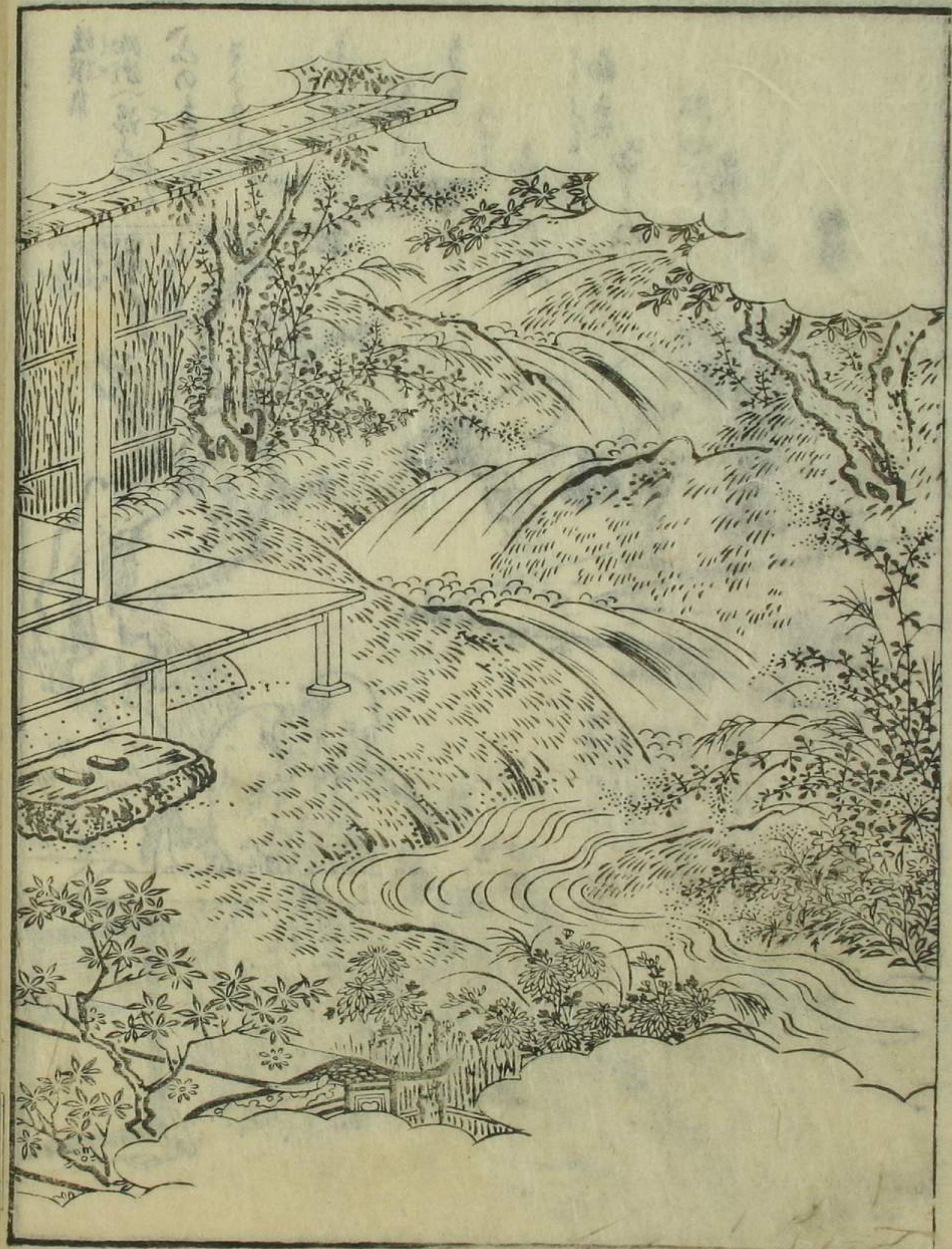
あまぬ

我やと

宿ん

かまのさ  
山を里ハ  
石と云  
折ふわ

上野北  
伊勢屋  
岡  
新兵衛



石上 山邊郡

古今  
いその神のまひちの言はく人もいその神といふことなり行たる所ふも  
やうぬふもいその神といふことなり行たる所ふも

日光登ふ一わはれいとれ神ありう一こも小はも咲たり 夕の面を

新古今  
石上ありう一人をいそむおとあさく内宿り葦はみたり 忠見

續古今  
石上ありう今ふるこ一昔れいとあさく孝の孫健 後鳥羽院

祝田神社 田部村あり 喜殿村 石上より十八六町

引手 中野東小あり龍王といふ  
倉道 倉道 小あり

倉道 倉道の山小味は屋く山徑りを生跡もか  
お小ゆくと月ゆる倉道れ山乃峯此根葉 願李

二階堂 本尊虚空藏菩薩うへに膳太寺といひう膳太姫

此造堂うとと初天香久の山表小あり標膳太姫とわあこれ  
賊の子を根芥が摘居るは聖徳太子のふそめとあひり

廣高宮 石上小あり仁賢天皇 穴穂宮 田部小あり安楽天皇の

山邊神社 西井戸堂村あり 長屋原 長系村

花名のの目香此里成とれいと君のわたりふんとあわん 太上天皇

白堤神社 長柄村あり今 倉田墓 中村小あり俗に殿墓といふ

千塚 二階堂の東の山邊小岩穴あり小あり 朝日豊明神社 佐保村朝日観音堂の

夜都伎神社 此を神名帳出 山口神社 山部村あり今水口明神と称す

亦曾林

二階堂



古の社

古の本

東門

虚空蔵

依上邪虚空蔵  
 如意弘仁寺  
 常山溪嶽の  
 天皇の勅願寺  
 日本之虚空蔵  
 弘仁五年甲  
 造立



あうせうあ



布留論

蘇州府

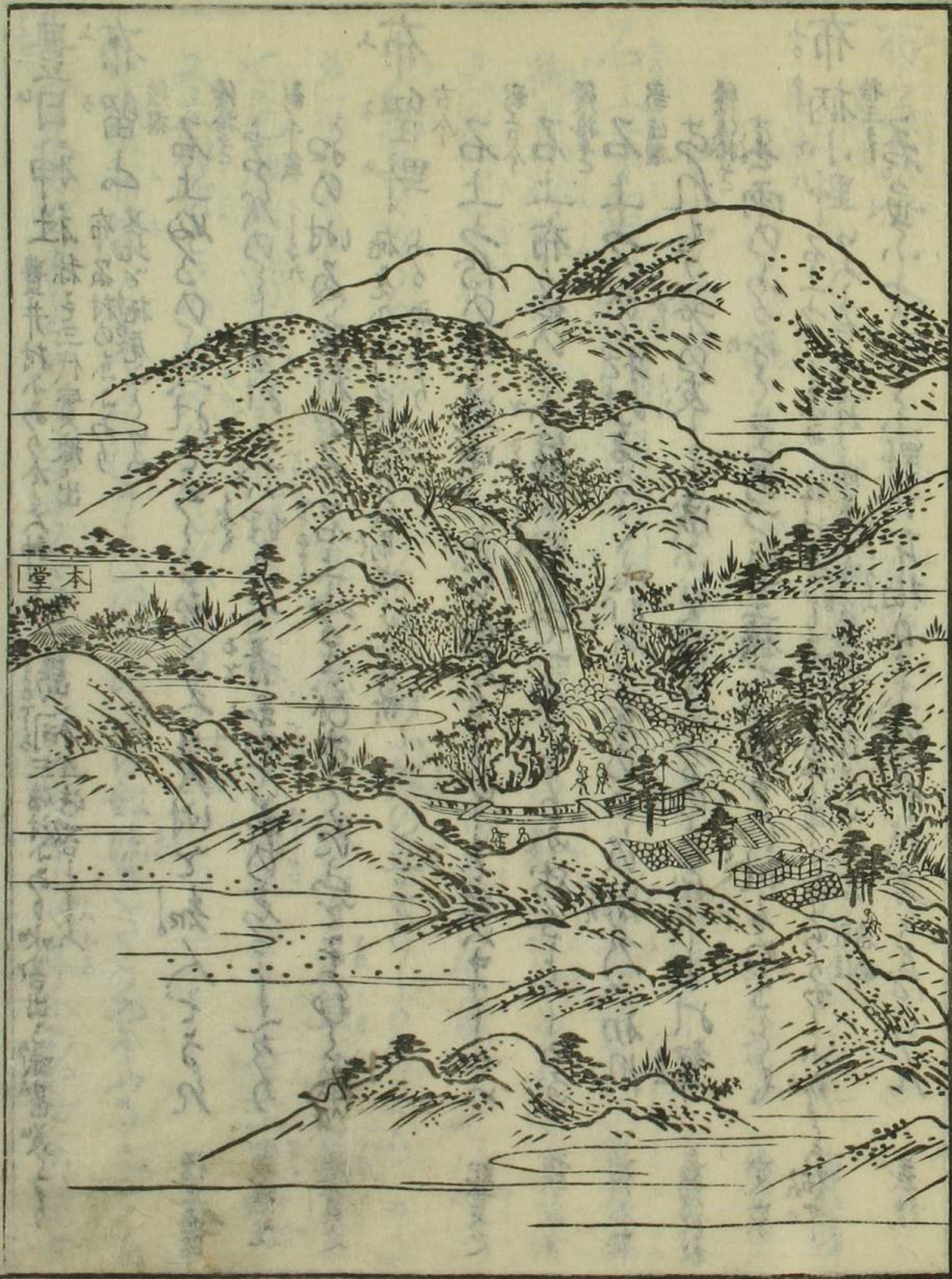
子の小ささり  
徳の松の君  
徳の松の君



布留社



蘇州府



Vertical text columns in the background of the left page, likely providing descriptive information or a poem related to the scene. The characters are small and densely packed.



布留瀧

桃尾瀧とていふ

豊日神社

豊井村あり今天神と三島祠三島村あり水都出づ味臣養より

布留山

布留村のふふあり其北と桃尾とあり

後撰

石上ゆふのふれさくく花うらん時と知人ぞうれ

信正編器

後拾遺

ちかぬのふれさくくはてきて青きそ花のまろくさり

順徳院

新千載

おのけるふれさくく石上ふれさくくはてきてむらん

紀貫之

布留野

桃尾ふり道のたけ馬場とあり新

古今

石上ふれの中道中くはてきてむらん

紀貫之

新古今

石上布留のふれさくく一夜とありふれさくく

権政公家

後拾遺

石上ふれの松れきさくくむらん

前田存基

新後撰

ちれも又老の友と成ふけりさくくはてきてむらん

去部隆親

後拾遺

春雨のふれさくくはてきてむらん

定家

布柄小野

石上ふれの中道中くはてきてむらん

定家

布留忘水

布留川

布留高橋

新後撰

むらんはてきてむらん

舞若法師

後拾遺

石上ふれはてきてむらん

津意法師

石上布留社

布留村及び甲村の氏神也 史當社と延喜式の石上坐布都

御亀神社

常陸國鹿嶋の神宮と同躰十握劔少くはり

又の御名

大蛇斬とも號と押し劔素盞尊出雲國うて八岐乃

大蛇

とありけその尾はさりありはつ小劔の又さくく

とあり

その尾は刻くはてきてむらん

て尾張國

熱田神より蛇はさくく劔と蛇の藤正と号し石上坐

又大蛇斬

といふ大蛇は羽とりあり

又大蛇斬

といふ大蛇は羽とりあり

石本

といふ大蛇は羽とりあり

布衣はくありたりその布衣のたれく劍のきほりしより神と祠く  
布衣の明神と号しする扱を布衣のたれくはるしとてかきとる盛表  
御鎮座八皇十代崇神天皇の所宇より伊香色雄命大座より  
天社國社とて八十万群神のついで大和國とて郡石上の邑に  
よりしより其神十種の瑞寶の高皇産靈尊より鏡速日尊より  
其子味間見命ふわとそより神武天皇ふより後より齊石上  
の大神と号し國家あがれ祀とたり

神庫 証殿の傍あり神庫に方入尺の櫃あり神倉とく

初冬のあけに神杖ひしてあゆみ歩くことありせり 長方  
いしとせりその神杖時雨つよとれぬ系糸結り初冬に 中宮御馬

宮居せしその始も石上少内社のと人やりひらん 終家

布留瀧 桃尾山小あり 飛泉三反むかり白虹を伝

穿く瀉を寒聲月公湧く走る絶系窮とてて廬山の

銀の三千尺ともいふべし

桃尾山龍福寺 北あり 基菩薩の南基うくいあり一々伽藍

嚴重より今類廢して僅小存せり本堂小十一面觀音と安住傍小

阿弥陀堂十二所権現春日祠あり足鎮守の神と其傍小鐘樓

ありく子院僧坊十六所ありとて

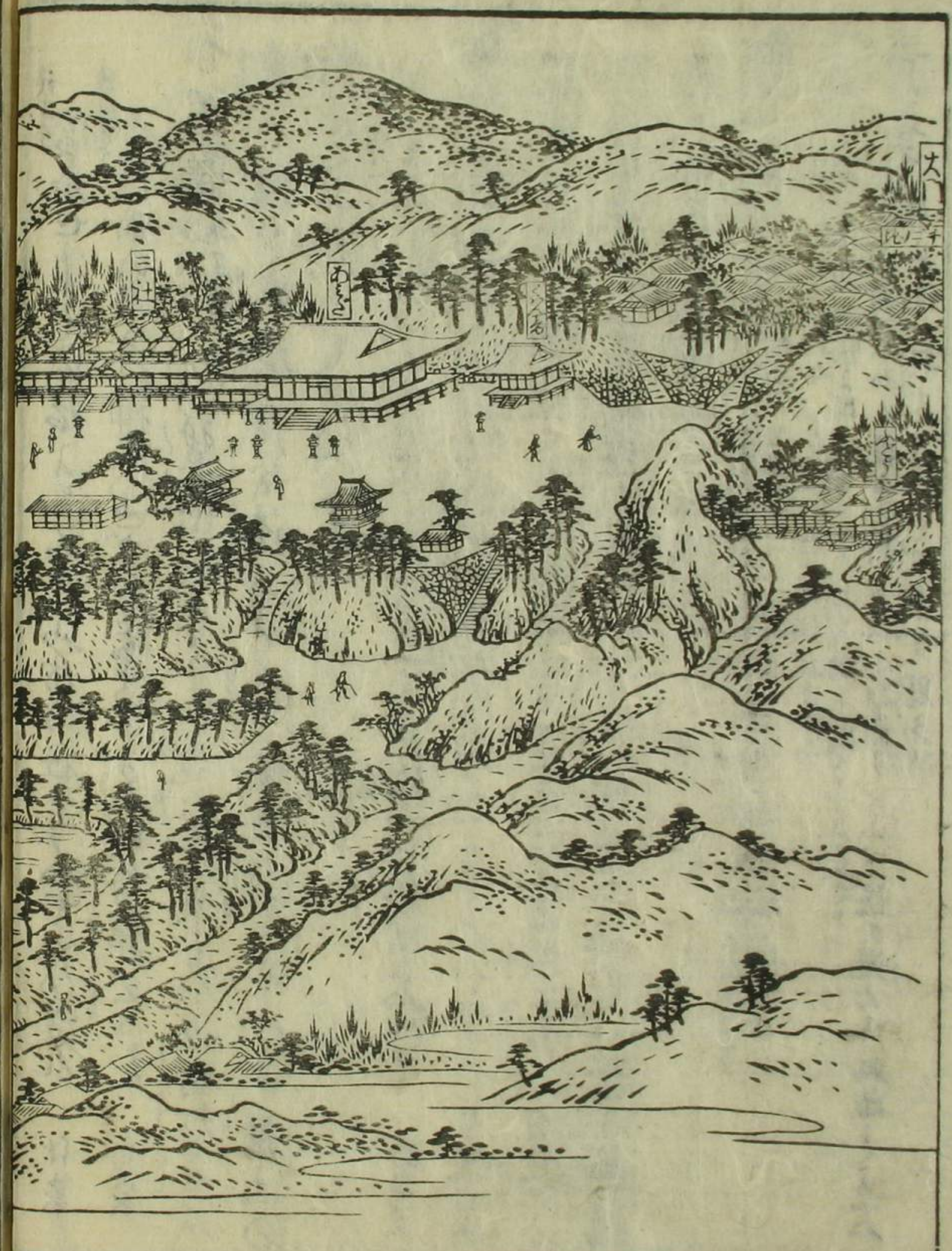
都介氷室 氷室祠あり日本紀出 都祁水分神社 朝田村小あり

下部神社 吐村小あり 中川 早川村小あり

青葉瀧 長瀬村小あり飛泉數十丈俗小雄瀧とて下流に瀧あり雌瀧とて人

共高とて杖とてく風系奇勝あり

内山  
永久寺



永久寺

山形



内山金剛乘院永久寺 山形村の東にあり 名剎院の清禪あり 同基釋

亮慧真言傳法の人之け地五銚の形のふり 中央山崎あり

これ内山と号せり永久年中の系創され永久寺と名附り宗首ハ

真言あり 本堂ハ阿弥陀佛と本尊とハ真院の不動明王(日本

三昧の其一より觀音堂千躰佛堂二層塔大師堂真言堂よと

大日如来安ん額ハ名剎院の表守之鎮守の社(清瀧権現岩石上

明神長尾天神ハ勸請と云元弘年中坐立城没落の時後醍醐天皇

志のびく入御し終ハ遺跡本堂の乾小あり又大塔宮ハ内山よ

隠れぬ其外諸堂魏々々々々々子院四十七坊ありと云ん宗派々

醍醐金剛院の法流々々々々當山派の法頭あり

良因寺 石上布留村 一名石上寺又名良峯寺今宵藥師堂といハ

天長年中長守法師任持と其後傍正遍昭と云に幽居と 遍昭の俗姓 良峯といハ

又素性法師と云に云と云の法師の石塔ありと云双紙小石と云

後撰集

石上小寺の寺小寺の日の暮かたを来ゆくとありてゆらん  
とくくくぬりくけ寺小遍昭たりと人の苦付たれとも  
ひこくろくぬんくくくくくく

石の上小旅渡かされててこびり苔の夜小借あん

小舟小町

五十一

世をむく葦の夜と只一寺のこひやうと三人孫ん 傍正遍昭

相模家集

大和の寺に本くこそ子般振布袋の社のおふとふんれ

大和大國意社新泉村延喜式曰大和聖大國意神社三座 并名神十八月次

相堂新堂文徳實録曰嘉祥三年十月從二位次授く三代實録曰貞觀元年

從一位次授く近郷八村の氏神 例宗四月朔日

柿大和大國意神と天照右神と二神あひるくく天皇入殿の内小寺

多々のふぞけく其後崇神天皇の清宇神の勢かたをく海とくもに

復々の安くく天照右神へ豊鋤入非令かかく倭登隆邑磯堅

神離波建くはくくく又日本大國意神波津名城入非令か

くくはのくくく命の發かちくち癩てはつくるかか

くく崇神天皇入く國中あかち疾疫く死亡との半にらん

とく同七年天皇けくかろげとあひと小倭迹々日百襲姫命

小大物主神著多ひく告ありと小津美小我足大物主の神あり

我見太田々根みかく我まのくくありくく右田々根

子今次神主くく又市磯長尾市倭國意神れ神主くく

ら志あまひくく後天下太平とせりぬ日本

来途寺多田莊村本尊若導師大師の遺像則大師のくく

あひく入滅八十七年の後来朝あり太平宝字七年筑は末く

の浦小美あひく其地の極楽寺のくくくく立年は

大和國十市郡後井の二光寺のくくく建曆元年の乱逆

小のくく多田の来途寺のくくの遺像或時の現し

僧文化して本像とり時あを瑞美か吉時あをる躰ありくりて人

か小及び其異くくの界くくの遺かくの寺記小くく

名張川伊賀上郡小入春日社十三村の氏神く山名御井あり

春日社十三村の氏神く山名御井あり

春日社十三村の氏神く山名御井あり

春日社十三村の氏神く山名御井あり

春日社十三村の氏神く山名御井あり

春日社十三村の氏神く山名御井あり

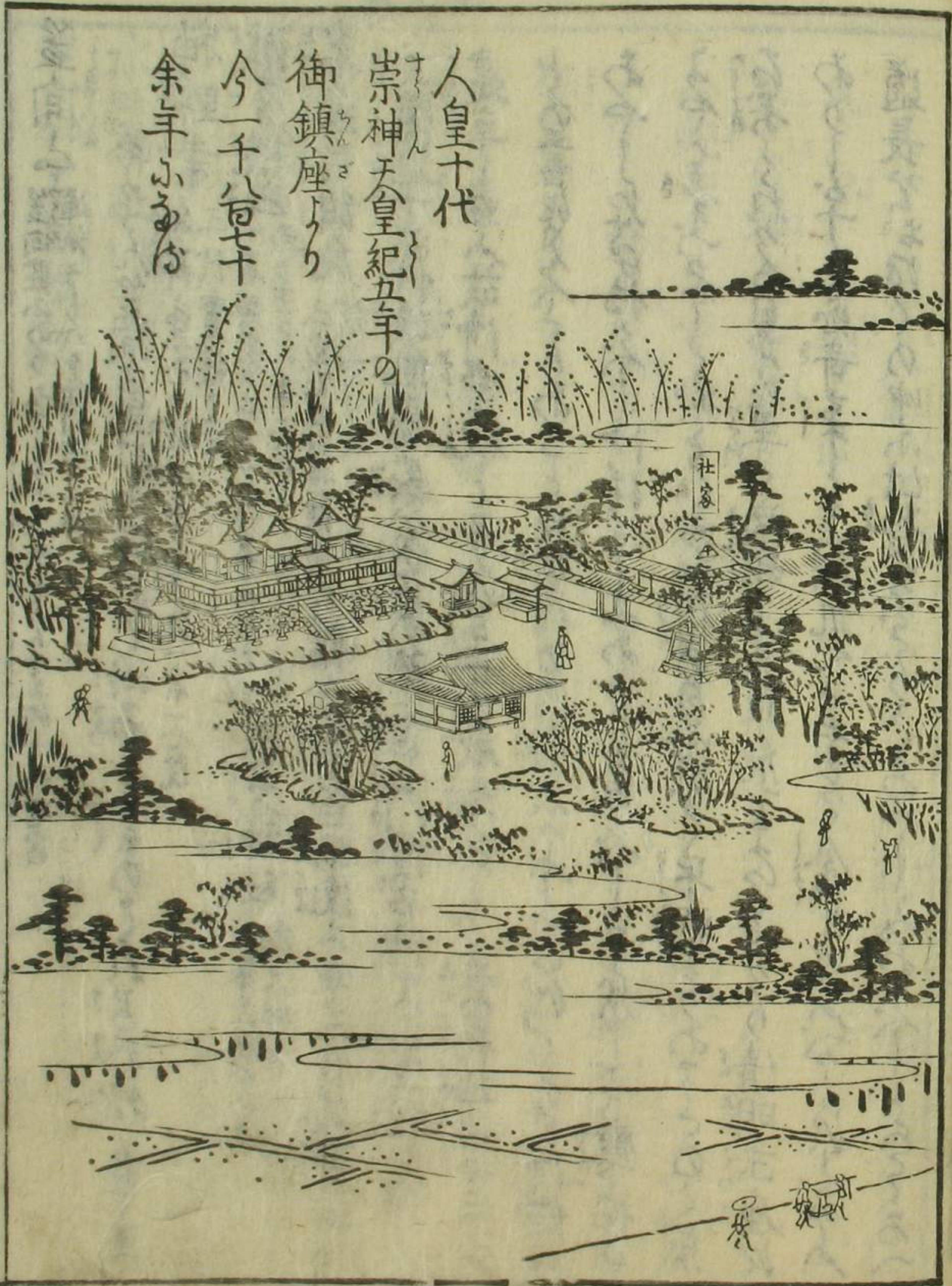
春日社十三村の氏神く山名御井あり

春日社十三村の氏神く山名御井あり

春日社十三村の氏神く山名御井あり

春日社十三村の氏神く山名御井あり

春日社十三村の氏神く山名御井あり



人皇十代  
 崇神天皇紀五年の  
 御鎮座より  
 今一千八百十  
 余年ふるは



大和神社



笠間山 後向莊小ありあり五里とありありの修賢の通流より代を清抄し出

神野寺 神野とあり法性山と号し一名一心院

波多横山 一名仲峯山といふ仲峯山村の神波多神社仲峯山村あり

名産白甜瓜 山邊郡田村丹波市村と雑々拾遺曰揚南左政大臣道長公と

大藏冠十二代後胤兼家公の家務上東門院の清父之堂塔おほく

建立し之故清堂殿と号し在世の威光とて栄花物語世修

どの書に記すありありと安倍の清明とていつの日の清鼓に

あやゝたの竹をく清はくみありく後をくや殿下何の

よやゝまゝとくおとひひの日の小成く早朝よりあやこの人

にまゝれくる日中に至く南都より早駕とてせり清明末座に

ありく早しき奇事とてけれとて食くあやのく清とて

道長公おほくの申しおほくありくあやゝみあやとて

くくやゝゝ宣入勅修僧正上座小居がく珠敷がより咒歌唱らる

此をもちらに踊りしやう大醫を雅一針がりのく此にさし則を

らるに頼光末座よりちか力杖とて二つ切もる此の中

小蛇ありく切られぬ殿下たれにんどもひ清明とてお北

さやゝ勅修の佛力がのく其實否然とてお神醫を

眼が刺とてお初世の頼光武勇の長人られりそらに切も首

あゝる是を自然の妙なりとてその縁ありりく

他田坐天照御龜神社 城上郡左田村あり

景行天皇陵 柳本村あり陵考曰字(王)之墓よりりけの上總村あり又とて道

竈馬橋 倭記曰釜の口れ東高嶺の口柳の高頂上小十市を部お備を忠の城跡あり

水口神社 淡谷村あり神名帳出

崇神天皇陵 淡谷村あり字王之塚といふ又宇和奈利といふ

神名帳出

神名帳出

神名帳出

神名帳出

神名帳出

神名帳出

神名帳出

神名帳出

神名帳出

郡上城

釜口の長岳寺の金剛身院柳本の東弘法大師の開祖して本尊と

虚空蔵菩薩之本堂の傍に大師の影堂あり又寶沈ありその

不やりに愛深堂の中へ傍坊十所あり西の山頂に古城乃

のあり其麓に千塚といふあり我死のとの成瘞む所と

穴師兵主神社穴師村の東寺月高小あり系所神代のむく天皇

天降りあり附護齊の鏡二面子鈴一合派神小そそそ其一の

鏡に天照左神の靈とて天懸神と神名派とて一の鏡に天照太神

の派靈とて國懸神と神名派とて今紀伊國名草宮に崇先

身成を神とて一の鏡子鈴と天皇御食津神朝夕の御食我護

日護齊を今巻向の穴師の太神是

珠城宮穴師村の西小あり俗に長者を安といふ後成

沈水の國とくけりやれとくの珠城の風と今も妙なり 清徳公

日代宮穴師村の小あり景行天皇紀四年十一月

緒環塚街道の東の小ありむく一穴師の宮に秋の夕暮 家隆

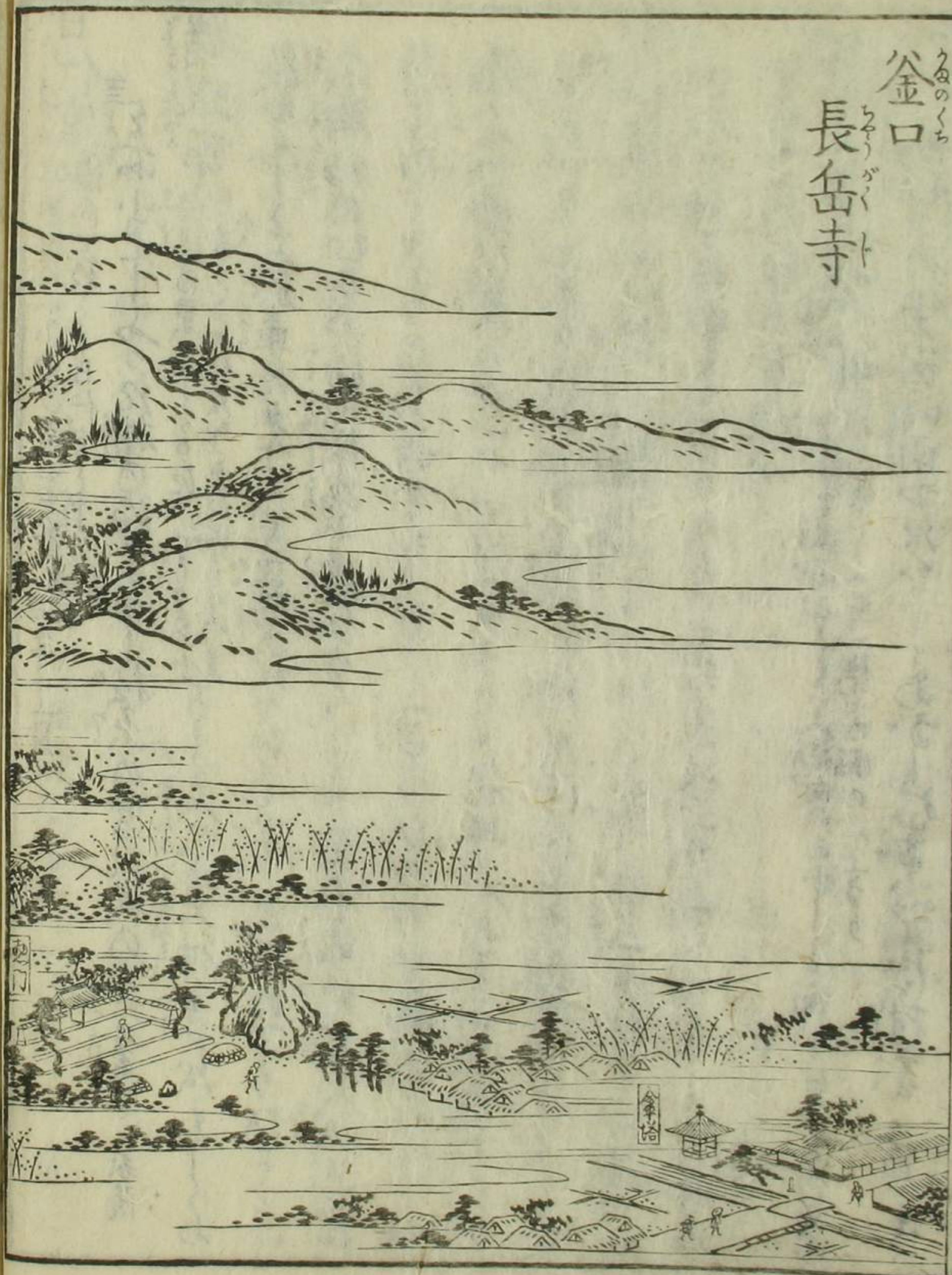
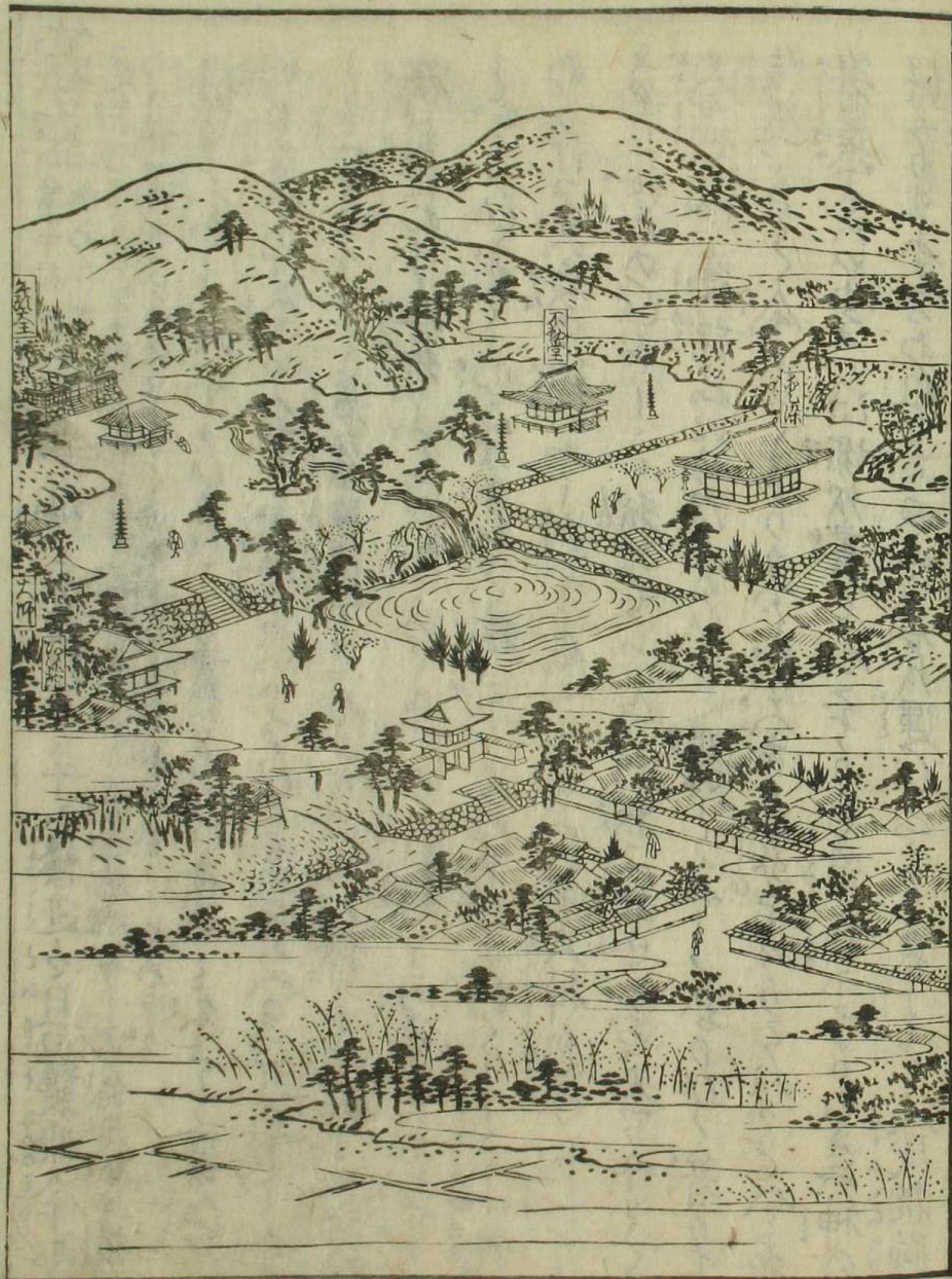
大胸祖のむま活玉依非小通ひ多ひ一が抄の通後人の志所

所よあござりたり其女とてわく子多ひたり父母あや一み

痛足延喜式穴師にもくけり巻向山ともいふ杖向のあかと旅つけりて頂小

痛足十市何糸の城終あり後一り所へ桃尾の嶽の水より

風むく粒糸の時雨かたく一あがれ岩小か村雲 基俊



金の口  
長岳寺

箸墓

著中村

崇神天皇紀十年小倭迹々日百襲姫命小

是孝元天皇の皇女則崇神天皇の姑内親王より質性聰明あり能未然公識

ある時和珥童女の歌を聞て武埴安彦の謀叛を察しちり

夜々大物主神やうひひいし書はるる夜のままにせむひれ

姫皇女のまふりやう君常にいふれを書はるるのまにせむひれ

とゆりやうと義藤威像とるるのまにせむひれ

櫛司にわらんぬかきもにちまふれ非るるのうらふあや

とあひふうとぬかきもにちまふれ非るるのうらふあや

ありけり只夜の紐のや則ち後とささるるの時大神忽人の形と

るり汝志のいどと我にちるるや山我又汝小ちるるせん

大虚とぬ御諸とにのりまひと姫ととちるるおひひ著りて

陰つとと今ふくろり多を則大市小葦子たりるれり人か

箸墓とといふりけ塚は書と人そりて流木夜小るりぬと神の

はくりもふあわれむ大坂と石を運びとりの墓とく人民相踵

の運傳て運ひた時の人あらしと

大坂 日本 不越 難越

おほさうにほれのぬきいびとあらしとあらしとあらしと

牛の諺小むうけ里小著中長者といふ人ありさるる富貴に

貧賤にちるるいと我いふあの人教て曰箸墓毎夜うへ

糸の成秘せんといふ長者といふのこく毎日箸墓拾とるに築と

箸塚といふと

三輪町 倭後記曰著中より十二町十向町の入口東の方

に三輪大明神の名居

おのりけりけし所とるる法師の厨基其ひうに所供所三面の大黒

天あり明神

南より平等寺と三輪の町ととるる三輪のひうとあり同林採葉抄曰三

輪山 神樂屋細抄曰三輪のひうとあり同林採葉抄曰三輪山

まの諸の孤峯峻拔とて林本青葱とるるあね瓜眺小群と小異と

山頂小不動薬師地藏の二石の像あり奥の不動といふ又弥勒石像

弥勒谷にあり高六尺

味酒れ之梅の祝のふては林のおまにらとるるはくとも

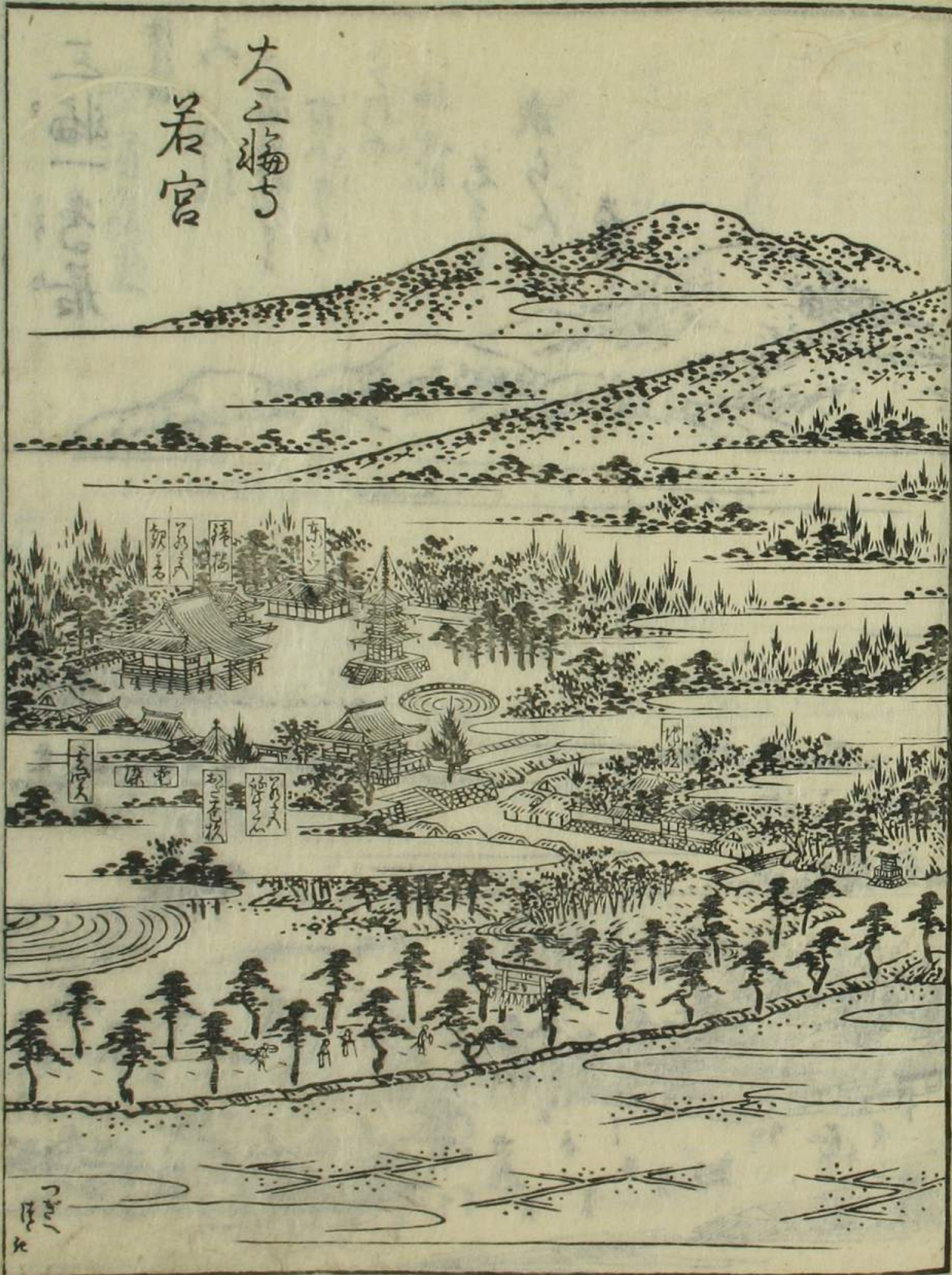
長屋王

は又文字小三訓あり味酒味は味は崇神帝の所製日本紀の

あふ瓜佐とるる

るり又酒は之編といふのけ神のはくりとるるはくとも

はくとも



大ニ編寺  
若宮



三編社

三輪一多居

倭後撰

みしめし

三輪の杖むす

古ふたり

これや

神代の

あつ

成らん

な家



古今  
我々

三輪の山り

まきくは

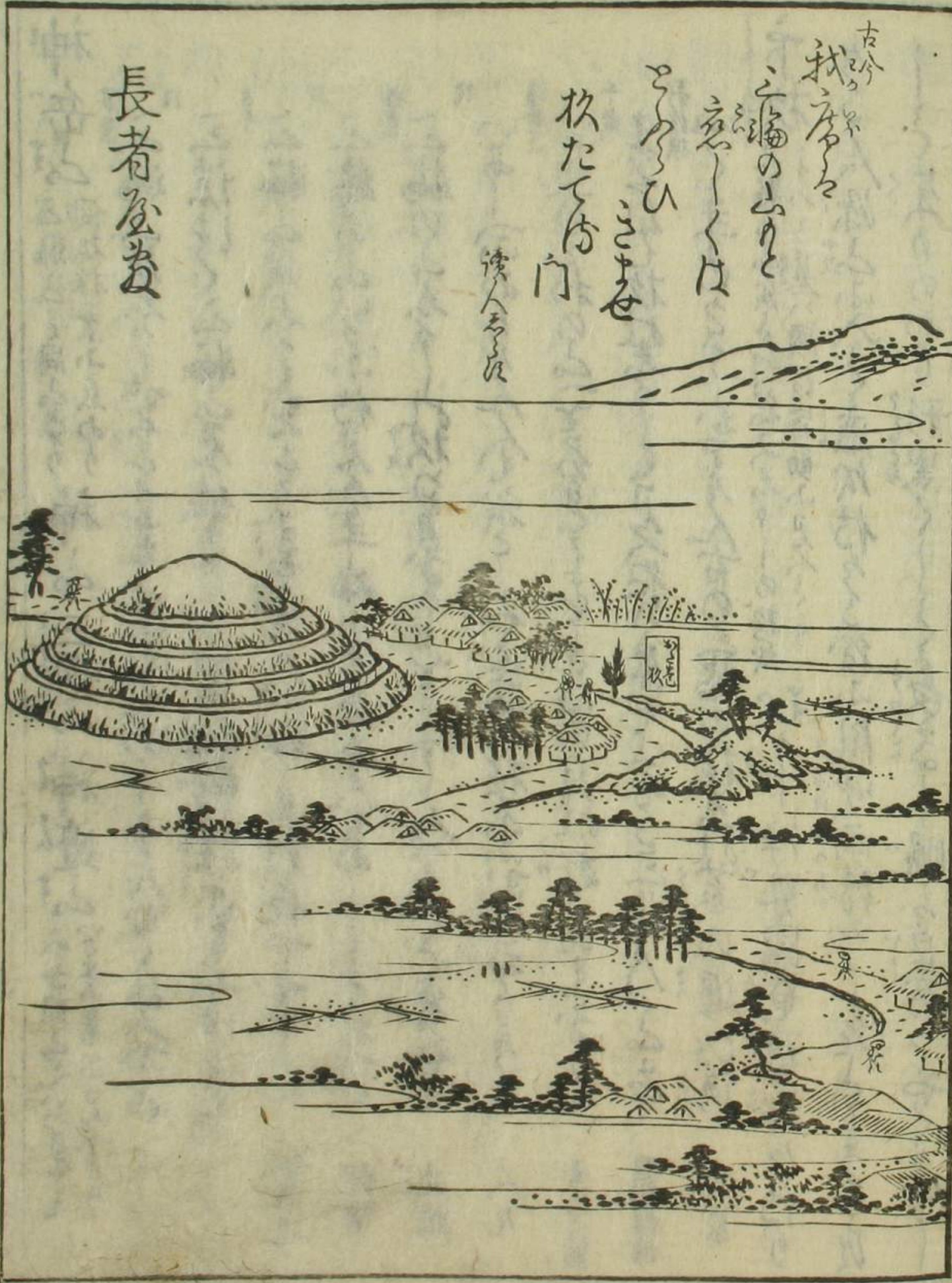
とくひ

こま

杖たて

門

倭人



長者屋敷



感かんしんくすしの小こ振おひく神かみにあわりとんくらりあれふとりくその神に  
あらふに伊い弼せ國くわあらたの郡ぐんの人けりをそれよりあらるの枚まとり  
るる諺ことわざ小こ鬼おにに神とりくらりあれい

伊弉諾いせだに  
伊弉册いせだに

下したとりの名の枚のまらす一ひととりあらればはらの山本もと  
後ご十じ載さい

三輪社三輪社 神名かみ大物主神おほものぬしのかみ 名神なごかし大月次相堂新堂三代實録おほつきさかむらたけのあたりのあたりに貞觀元年正月  
大己貴命おほのむすひのみこと評定萬國功績既成初營建宮殿於日本國之三諸山就而居住此大三輪

三輪社三輪社

大己貴命おほのむすひのみこと 醫道いどうの神とり

大己貴命おほのむすひのみこと 神かみ光ひかり海うみとりくらりあれい

大己貴命おほのむすひのみこと 神かみ光ひかり海うみとりくらりあれい

大己貴命おほのむすひのみこと 神かみ光ひかり海うみとりくらりあれい

日本日本 又また崇あそ神かみ天あめ皇みかど七しち年ねん倭迹やまと々々百襲ももぎ姫ひめ命のみこと大物主神おほものぬしのかみにあらはれり  
告つたえりては小津こつ渡わたりて大物主神おほものぬしのかみ之のかみ我われ見み左ひだり田の根ね子ことりて秋あき祭まつり  
大己貴命おほのむすひのみこと 神かみ光ひかり海うみとりくらりあれい

當社あたりのかみ大和國大和國一官ひとつのつかさ一ひととりくらりあれい

三鳥居三鳥居 神かみ秘ひ藏かくりとりとり

伐き掛か相あひか 神かみ秘ひ藏かくりとりとり

岩倉いわくら祠わら 本もと社やしろより東下した

燈あかり明あかり相あひか 本もと社やしろより東下した

鴨鴨峯かみ祠わら 本もと社やしろより東下した

日原ひばら祠わら 本もと社やしろより東下した

貴き船ふね祠わら 本もと社やしろより東下した

神かみ寶たから祠わら 本もと社やしろより東下した

天あめ皇みかど祠わら 本もと社やしろより東下した



綾榻社 本社より二町南小あり 磯城宮 本社より三町南あり 門相 本社の右の脇に大松あり  
 夜掛相 右の方に大木の松あり 御新橋 武中長者の御新橋あり 旗建芝 毎年正月十日小五穀成就の  
 二本相 一株の寶永年中大風の御新橋あり 大橋 毎年正月十一日夜神事あり  
 駒留石 四月卯の日祭事に社司の所あり 旗建芝 毎年正月十日小五穀成就の  
 網掛松 毎年正月九日法津の御新橋あり 旗建芝 毎年正月十日小五穀成就の  
 惠養領社 本社の町小あり 毎歲正月 池田 本社の七ツ池の一ツあり  
 洲橋 ありしゆ小名つくつあり 菜摘田 本社の右小あり 今もあり  
 市枝處 毎年六月晦日社人け所にゆく 二鳥居 大橋の  
 間小あり 若宮社 二の鳥居よりまを町小あり 大鳥居 大橋の町  
 小あり 社記小曰むくく額あり 勲一等 大鳥居の町  
 大神大物主とあり 今もあり  
 觀鷲百譚云神代の文字とくく之編大明神の額とあり 今も  
 興福寺の庫中小在 今もくく之小書に勝之石礮の松の字と甚

似たり世小叔孫通るれ故小まのあり

三輪社 久代  
 大鳥居の額  
 神代の文字と  
 云々



長三尺二寸

日向社 本社の嶺小あり 今高宮と称す 狹井溪 水涸た之嶺より狹井寺の  
 溪小入 狹井坐大神荒魂神社 本社の北狹井川の南にあり 今も  
 網弑神社 本社の嶺小あり 平等寺 三輪村小あり 本堂護摩堂祖師堂  
 珠城山 纏向山の西に小と孤と  
 夫木 里人のつゝ岩糸の道とくたされのふい若りのたり 實伊

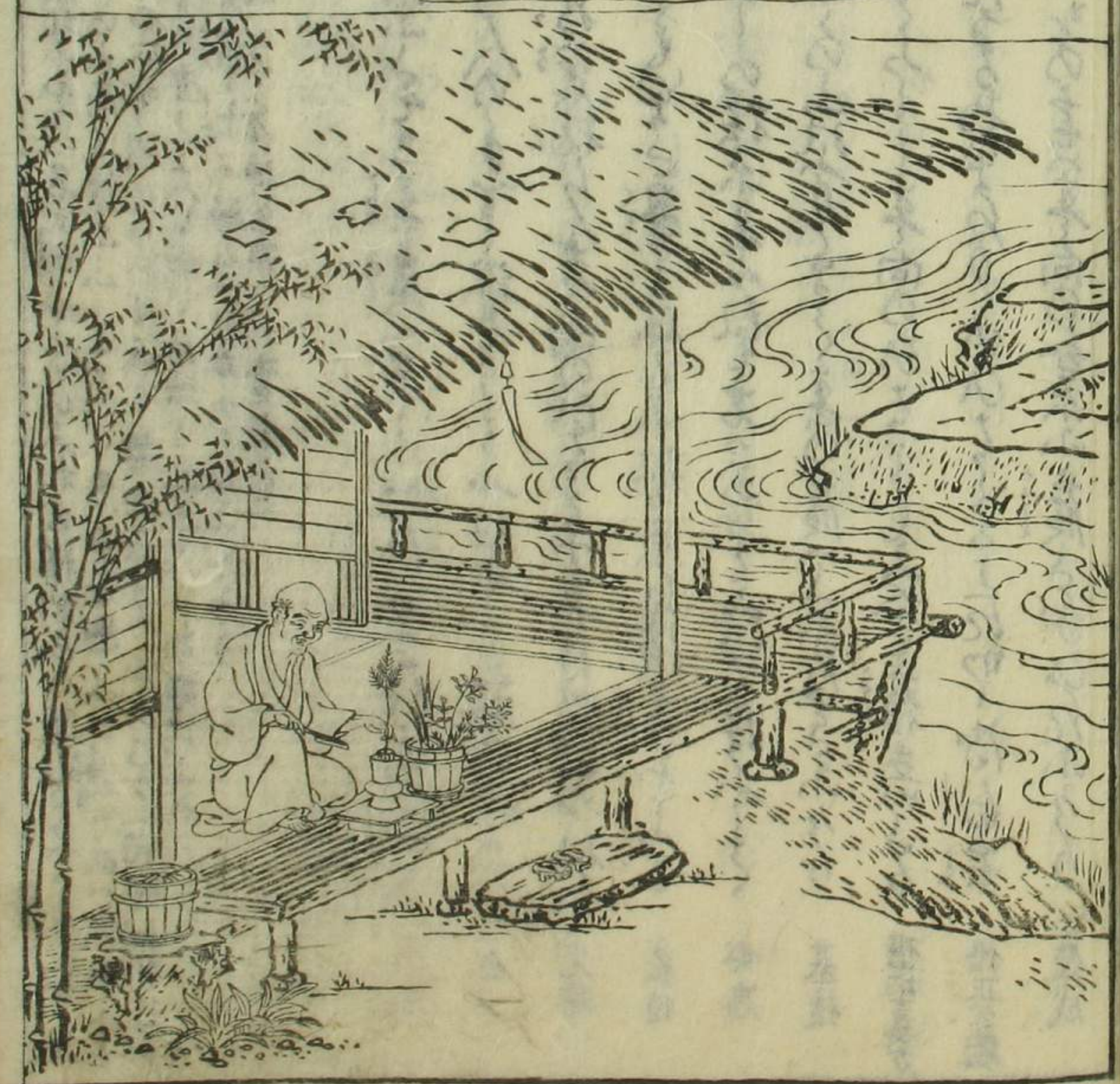
玄賓菴

資公集曰あゝの帝  
 神時大傍都にふ  
 むいろうの神一  
 々々々

之猶川の清れ  
 かうれふ  
 まてて  
 夜の社もふ  
 けさ  
 玄賓傍都



飢食松花渴飲泉  
 偶従山後到山前  
 陽坡軟草厚如織  
 因與鹿麋相伴眠  
 これ唐の錢起  
 詩め〜其伴  
 くら〜みゆる



三編の東北より一名六師山とて和歌山縣足利の所小川より峯原

向山 予月嶽とて南河内檜原山とて東の初瀬山に連り西へ珠城山と

纏向溪 一名六師川とて水原と纏向山より流る

卷向坐若御魂神社 三編の北巻向の檜原山あり

檜原 纏向山の

卷向の檜原山とて三編の北巻向の檜原山あり

乃何のさり人のもさ終をううあれそり三編の檜原山

入吉野もさ菜搦らん巻向のひとも予て日殺神ゆえ

巻向のひとも予て日殺神ゆえ 家持

巻向のあまの核系まなれ若ら若らとみゆる終をうう

巻向のひとも予て日殺神ゆえ 基俊

松を道まはらん巻向のひとも予て日殺神ゆえ

花さそをなるとも予て日殺神ゆえ 僧正公朝

巻向のひとも予て日殺神ゆえ 後成

予月嶽 纏向山の寄附は是より初瀬山に連る

足利の山に纏向の山あり予月嶽ありまきまきとて

初瀬山あり予月嶽ありまきまきとて

大御輪寺 馬場村小あり三編大宮若宮の本祀佛堂二宇三重塔護摩堂藏経堂

加藍神等あり腰を法師の胸基とてつり終を教書に久伝

この山基のより人入に又對に大皇の清宮三編明神の通る

いづれもさり人入に又對に大皇の清宮三編明神の通る

の世宣のよみに入定しとて未代二年特公足せん

此の山基のより人入に又對に大皇の清宮三編明神の通る

西へ珠城山と

新編のまきまきとて三編の北巻向の檜原山あり 備後淡路

巻向の核系まなれ若ら若らとみゆる終をうう 土御内院

乃何のさり人のもさ終をううあれそり三編の檜原山 中国入道

入吉野もさ菜搦らん巻向のひとも予て日殺神ゆえ 藤原朝臣

巻向のひとも予て日殺神ゆえ 家持

巻向のあまの核系まなれ若ら若らとみゆる終をうう 家持

巻向のひとも予て日殺神ゆえ 基俊

松を道まはらん巻向のひとも予て日殺神ゆえ 僧正公朝

花さそをなるとも予て日殺神ゆえ 後成

巻向のひとも予て日殺神ゆえ 後成

予月嶽 纏向山の寄附は是より初瀬山に連る

足利の山に纏向の山あり予月嶽ありまきまきとて

初瀬山あり予月嶽ありまきまきとて

大御輪寺 馬場村小あり三編大宮若宮の本祀佛堂二宇三重塔護摩堂藏経堂

玄賓菴の舊趾三輪山の北檜原谷あり一名玄賓谷といふ

本社 十町をうらめしむ日守社より東の町 山空しく常は松子落谷出

みく人跡稀あり堂々玄賓傍郊ありに流して白雲と

枕みし風を月と共小法うしく世の塵埃に染るるがたけ

解脱の空門にいまうたり押け傍郊と姓は弓削氏河内國の令

書 山階寺の止事るれ智者よりくれと世に獸人かくして

玄小寺院のまうたり成好まは之藤川のふたり小僅る内庵

とむとびく住たり桓武帝の時討けまきさめりゆく強小

ゆくれを遺るつこころくろくろくろくわふまうりたり

されとも本意うはかりひくろくろく其後越後のうころは

たろく海小波守ていませしと才子より人かのもく帰て

のぼるりふこそうくみくをく對面せんとおひく帰るるおと

とろひくれむかの月日いつらもふく身を隠されしころり

集 發心

三輪崎 之藤山の南麓尾をうく長谷川がうれり

百景 佐野のつくりもまはたけり

夫本 三輪崎夕陽を村ふる佐野にけり定家

倭法記曰三輪の町成りてまはたけり長谷の記に三輪山の尾崎ありとれは

三輪崎といへり又けきにふり流るる小波あり土人これ佐野の

あつりといへり佐野といへり

佐野 井蛙抄曰佐野の舟橋又佐野の中川瀬絶しくふとくよろも上野

源氏物語小葉大將うねふし河原をわたり新に之糸のよひの

やとりはたおいとまのびくおとくろくかく葉内いませねと

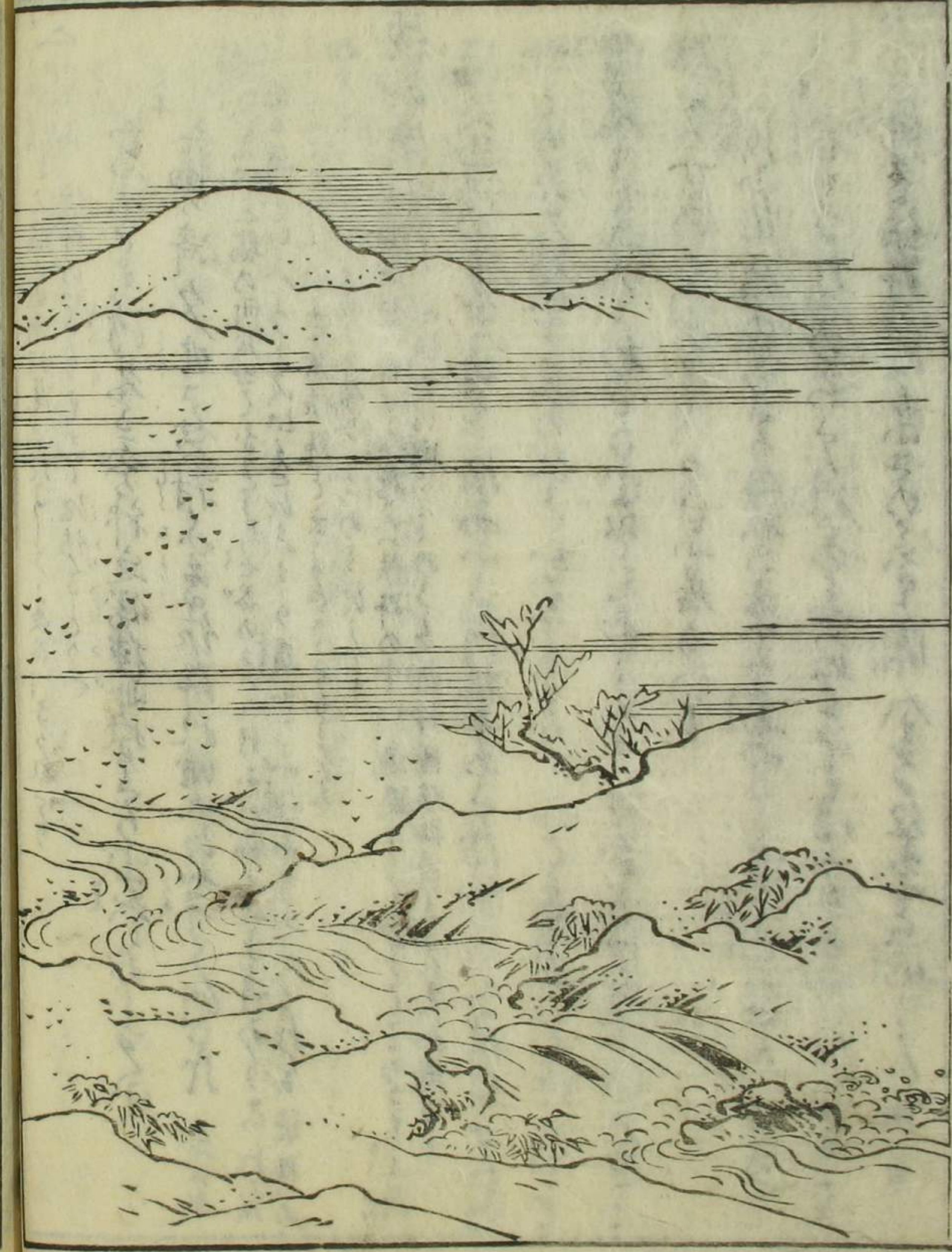
やえくこのわたり小葉もあふくねとにむとひくこと

びくすのころりつくと小居の人

彩後撰 月ふり依のうりの林の夜と霜ありとまは泊やせん 津守國助

彩拾遺 霜もさらたのわたりたのやれはてもゆく金雨の流 保家長教

千首 時を佐野の流りふこのまはと國人もるる若と鳴く人 師兼



海柘榴市

金屋村より四町より東あり  
近年観音堂あり

源氏王葛巻之儀かくあり

くれむと我玉の君をいせしとらん  
いけらるるにいけらるるに  
いけらるるにいけらるるに  
いけらるるにいけらるるに  
いけらるるにいけらるるに  
いけらるるにいけらるるに  
いけらるるにいけらるるに  
いけらるるにいけらるるに  
いけらるるにいけらるるに  
いけらるるにいけらるるに

枕まふ之法をいれ大和あまの  
そふとむりたる親善のほげ  
能因所枕之海柘榴市は  
本市といふ土蜘蛛は  
林逸抄云初瀬とあり

そふとむりたる親善のほげ  
能因所枕之海柘榴市は  
本市といふ土蜘蛛は  
林逸抄云初瀬とあり

の対桂市小右記曰正暦元年九月  
楓浦燈籠

楓浦燈籠

海柘榴市に半備ふとあり  
志紀御縣坐神社

志紀御縣坐神社

金屋村小あり志貴宮と稱す  
神名帳及び三代實録小出

磯城瑞籬宮

金屋村の西南初瀬川の南あり  
欽明天皇都筑磯城を治り

玉林抄曰今敷島とあり一郷のあり  
あり足欽明天皇の内裏のあり

瑞籬宮欽明天皇磯城瑞籬金刺宮より  
抄曰大和國と云々

抄人皇三十代欽明天皇紀元年七月  
抄曰大和國と云々

世尊滅後一千五百一年といふ

志紀の倭國とあり

大和の志紀の宮とあり

磯城瑞籬宮

金屋村の東志紀  
社の西にあり 崇神天皇三年小都



朝古今  
 出たつやうあふの  
 光るよりの  
 光るよりの  
 弓の月

松川院



磯城嶋高圓山 龍谷村あり

左の邊や高圓山の松風ふりりたるまき然り三月廿日 讀余

宗像神社 三座外山村あり今春日と稱と

鳥見丘 外山村の上東の方にあり是より宇陀郡萩原村に至るより上古より人々

跡見橋 外山村あり 恩坂山 外山村あり 恩坂川 外山十市郡栗原外山

寺川 小入 舒明天皇陵 恩坂村の上あり陵圖考曰舒明帝の陵字段々塚といふ

田村皇女墓 延喜式出此三墓俱小 大伴皇女墓 延喜式

鏡女王墓 舒明天皇の陵城内あり 恩坂坐生根神社 忍坂村あり神名帳及ひ

廢慈恩寺 慈恩寺 龍谷寺 龍谷村 泊瀬朝倉宮 黒崎岩坂二村の間

故に宮と定む帝王編年小城上郡磯城谷より長谷より

南北町とありしなり 岩坂井 岩坂村あり一村塔 嚴檀本 白川出雲の二村の人皇十代崇神

天皇四十二年大照を神大和國伊豆加志本の宮に

おひく八年心ひなりたる 倭姫 磯城嚴檀之本とも 葛本室 書

土人曰く大照を神とせむはひり長谷の町とらぬ民屋の

内小磯ニツあり按より小磯城は伊豆里神小名の遺より伊豆毛村十町を

神にあり伊豆加志本の名居のむにたりるん

近年言保五年に華表立

車鞆 迹駑淵 車鞆橋 俱小 白川村

東の麓いっかかばはくおそはく

日本紀曰く 天武天皇白鳳八年帝幸泊瀬其迹駑淵上

兼田神社 白川村車鞆の上あり 金平山 白木村上方あり山勢高く聳へ

巔に到りて遙く 吉隱陵 式曰皇太后紀氏

西海に臨む 猪飼山 吉隱村の上方あり山中に樹多し秋の末燼燻の時蜀錦と勸小

持統紀九年十月菟田吉隱小幸其神と浪芝と

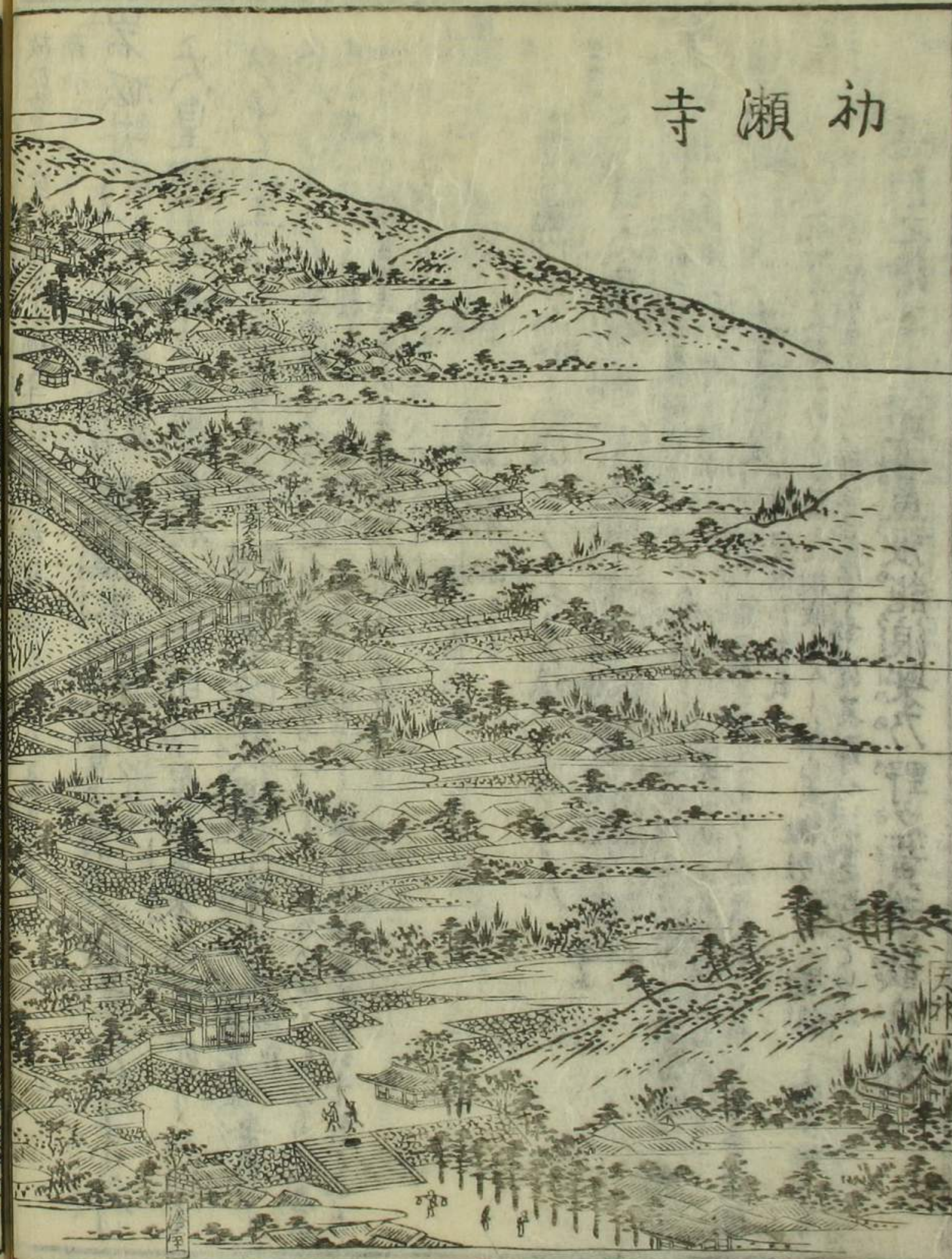
吾門之淡茅名就吉魚張能浪柴乃野之黃葉散良新





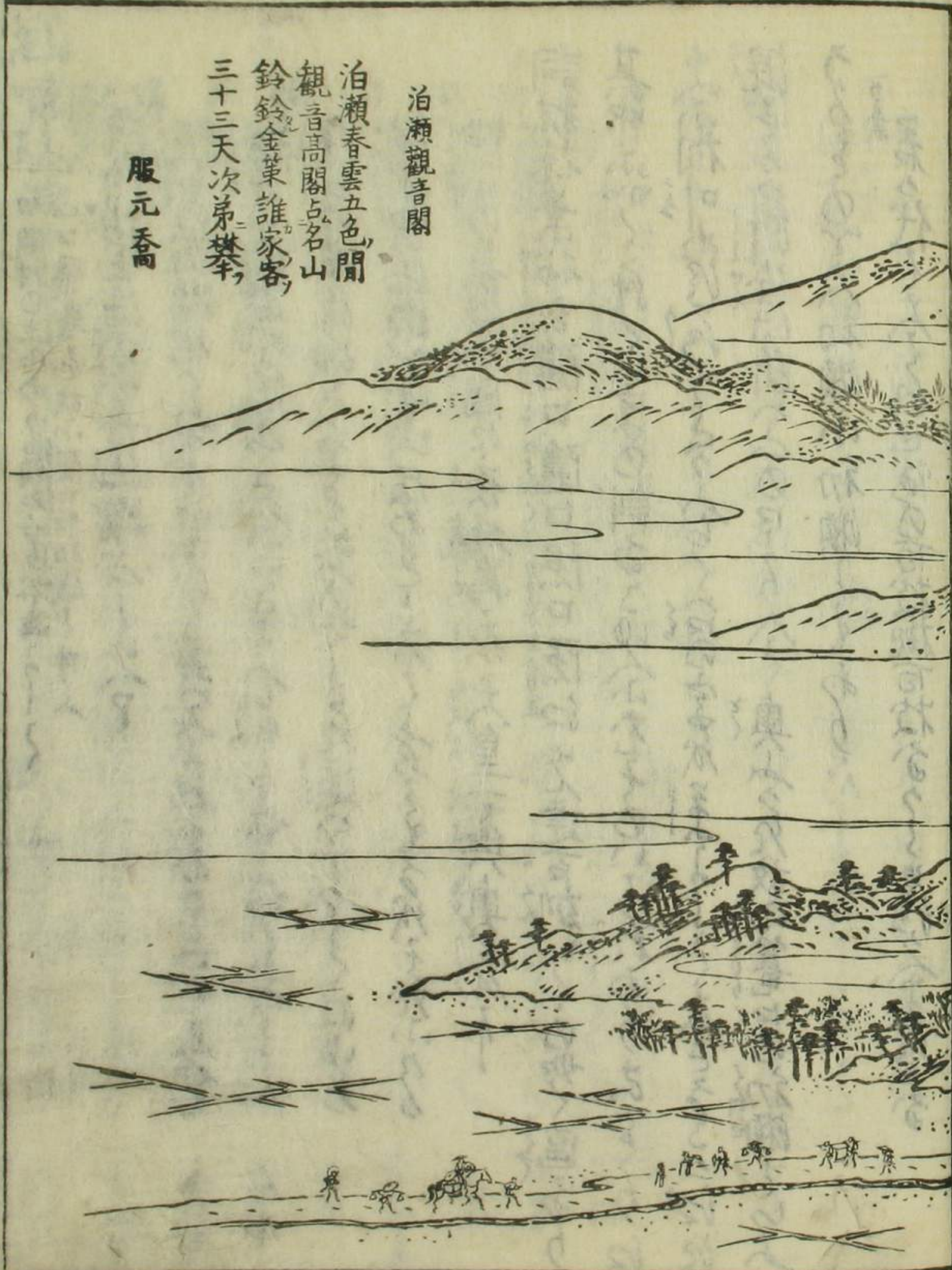
法  
院  
寺

初瀬寺

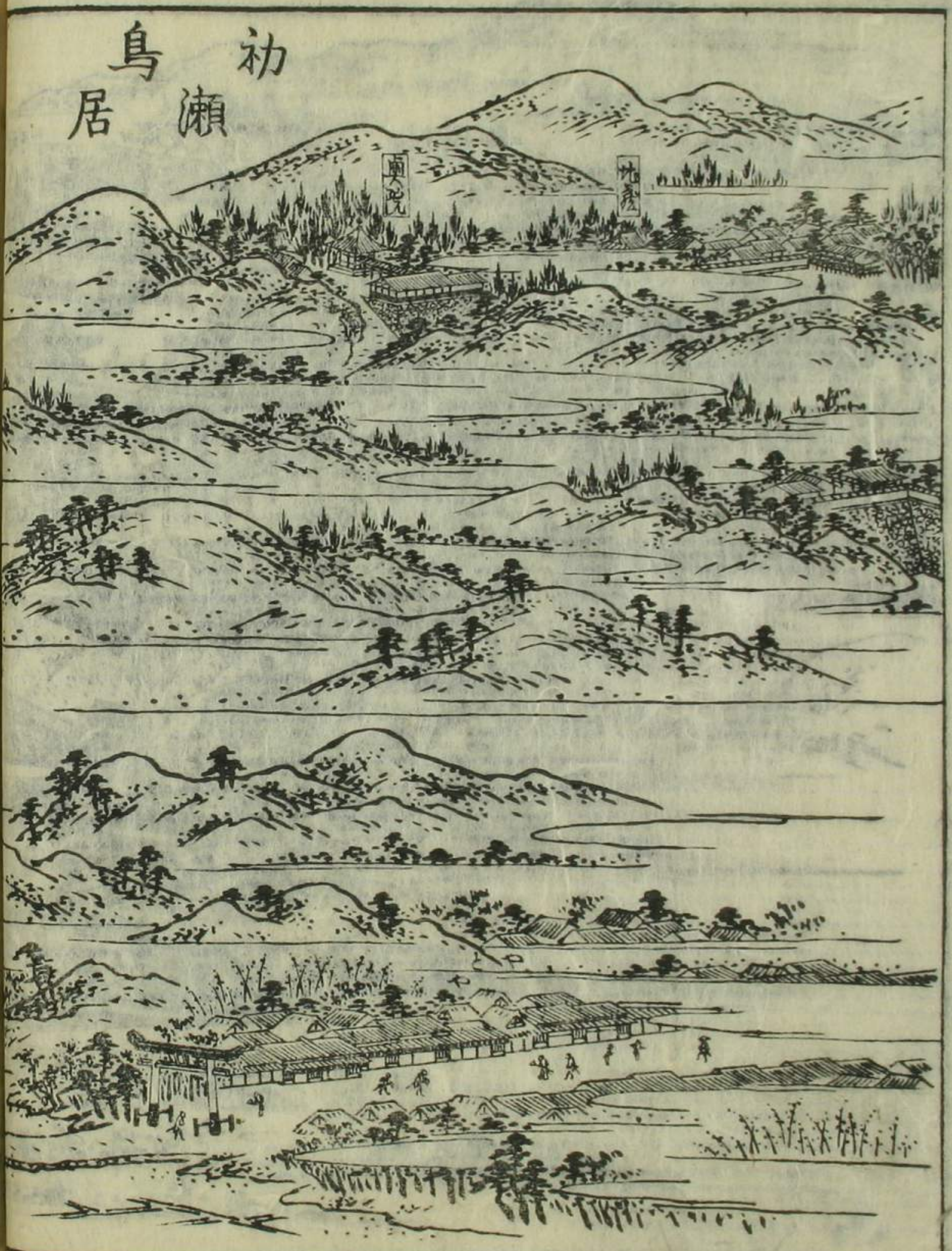


天  
林

泊瀬觀音閣  
 泊瀬春雲五色間  
 觀音高閣占名山  
 鈴鈴金策誰家客  
 三十三天次第攀  
 服元喬



初瀬  
 鳥居



泊瀬

初瀬村の上小あり、瀬の入り谷あり、

八雲淨抄云海小舟泊瀬とてりて

隠口の泊瀬はとてりて小舟のりてあるはみとれありといと老老

隠口の泊瀬はとてりて小舟のりてあるはみとれありといと老老 人丸

隠口の泊瀬はとてりて小舟のりてあるはみとれありといと老老

隠口の泊瀬はとてりて小舟のりてあるはみとれありといと老老

隠口の長谷小國に夜延為永天皇す與與本下

詞林採葉抄云隠口隠口隠口隠口隠口隠口隠口隠口隠口隠口隠口隠口隠口

其中小かくて行くの字の訓あるは小をそのいともれありとてりて

又小相叶はびとるうとてりて小の字は葉よりとてりて小の字は葉よりとてりて

混ざる所詮け新とのりて今奥ふた故小菟の初瀬といふ

るものとて大初瀬小初瀬ともあり

若く代をたてりて後百枝極百枝ふくもははるまじふ

事之あるは小初瀬の字は本にそのりて小思ふふがせられ

海小船泊瀬のふふとてりて滑くともいへるやとてりて

詞林採葉抄云海小船初瀬といふとてりて今奥ふた故小菟の初瀬といふ

去はくはみとるのりて人々に伝せり

後抄 十月とてりて小舟のりて行くの字は葉よりとてりて小の字は葉よりとてりて

水道の初瀬の字はみとるふとてりて小舟のりて行くの字は葉よりとてりて

泊瀬とてりて小舟のりて行くの字は葉よりとてりて小の字は葉よりとてりて

夕帯に控へんとて初瀬といひあひの種のもろとてりて

と初瀬の花は盛花とてりて小舟のりて行くの字は葉よりとてりて

うつとてりて人初瀬のふとてりて小舟のりて行くの字は葉よりとてりて

年とてりて初瀬のふとてりて小舟のりて行くの字は葉よりとてりて

花のふとてりて初瀬のふとてりて小舟のりて行くの字は葉よりとてりて

このりての初瀬とてりて小舟のりて行くの字は葉よりとてりて

泊瀬女の字のさうとてりて花のりて行くの字は葉よりとてりて

兼昌

匡房

兼昌

定家



壬二集

紅の

うら花梅

かのくと

朝日

うさ

小初瀬

の山

家海

泊瀬川 初瀬川 二流あり一は金平よりふるれ一は二流相合一初瀬出ま黒崎  
本郡小夫笠村八幡と和田村小より二流相合一初瀬出ま黒崎  
恩寺金屋二浦豊赤んこく  
江提ふり城下郡に入  
古今

初瀬川古川のふ二本五枚年成へくもまきん二本五枚 後人考  
日

初瀬川流さるや濁らん葉なげく我身とおりの人む 日  
日

涼しき秋や涼を初瀬川より風の木のまきくげ 有家  
日

石く初瀬川の川波枕をくもく一のこれふけり 後人考  
後後撰

初瀬川の白ゆふ花おちもこす氷にせむ川のみ 後人考  
日

初瀬川よりまきくもく川方ののりさりこれ枚 寂蓮  
日

初瀬川よりまきくもく川方ののりさりこれ枚 寂蓮  
日

初瀬川井でまきく波の岩の上のねさけく人花難面 後人考  
日

初瀬川岩りくまきく水のまきくく神代 後人考  
日

### 度末世

向林採葉まこの川に初瀬川といへあり長谷寺ふりてめり  
八雲抄曰初瀬初瀬  
日新あり

海小舟とまきく波の岩の上のねさけく人花難面 赤人  
日

お出だまきくまきく波の岩の上のねさけく人花難面 黒人  
御集

### 本葉宮

藻塩まきく初瀬川ありむく初瀬へ海にくくへありあま  
人のさへ瑞相ありく本葉のまきく祠や今より作り  
親考是ありこれ二十巻の神社の  
宮れ

### 紅葉里

藻塩まきく初瀬川ありむく初瀬へ海にくくへありあま  
人のさへ瑞相ありく本葉のまきく祠や今より作り  
親考是ありこれ二十巻の神社の  
宮れ

おのよりいでく初瀬川ありむく初瀬へ海にくくへありあま  
人のさへ瑞相ありく本葉のまきく祠や今より作り  
親考是ありこれ二十巻の神社の  
宮れ

### 鶯山

藻塩まきく初瀬川ありむく初瀬へ海にくくへありあま  
人のさへ瑞相ありく本葉のまきく祠や今より作り  
親考是ありこれ二十巻の神社の  
宮れ

### 鍋倉山

藻塩まきく初瀬川ありむく初瀬へ海にくくへありあま  
人のさへ瑞相ありく本葉のまきく祠や今より作り  
親考是ありこれ二十巻の神社の  
宮れ

おのよりいでく初瀬川ありむく初瀬へ海にくくへありあま  
人のさへ瑞相ありく本葉のまきく祠や今より作り  
親考是ありこれ二十巻の神社の  
宮れ

一多居の初鹿野の入口にあり  
 額菅神迹作の久本縁起の  
 中の蔵王権現の真詞より録書  
 みて安井御門跡道信卿の  
 所筆あり

功徳成就隆  
 諸佛經行砌  
 諸天神祇在  
 此山振威驗



保良物語  
 五ノノミ  
 此の山に神迹あり  
 諸佛の經行砌  
 諸天神祇在  
 此山振威驗  
 功徳成就隆  
 諸佛經行砌  
 諸天神祇在  
 此山振威驗



此の山に神迹あり  
 諸佛の經行砌  
 諸天神祇在  
 此山振威驗

古河野 古河野 二本松 長尾氏曰二本杉本堂の東下校の寮下小あり

古河野 二本松 古河野 二本松 古河野 二本松 古河野 二本松

古河野 二本松 古河野 二本松 古河野 二本松 古河野 二本松

古河野 二本松 古河野 二本松 古河野 二本松 古河野 二本松

古河野 二本松 古河野 二本松 古河野 二本松 古河野 二本松

古河野 二本松 古河野 二本松 古河野 二本松 古河野 二本松

古河野 二本松 古河野 二本松 古河野 二本松 古河野 二本松

古河野 二本松 古河野 二本松 古河野 二本松 古河野 二本松

古河野 二本松 古河野 二本松 古河野 二本松 古河野 二本松

古河野 二本松 古河野 二本松 古河野 二本松 古河野 二本松

古河野 二本松 古河野 二本松 古河野 二本松 古河野 二本松

古河野 二本松 古河野 二本松 古河野 二本松 古河野 二本松

古河野 二本松 古河野 二本松 古河野 二本松 古河野 二本松

古河野 二本松 古河野 二本松 古河野 二本松 古河野 二本松

古河野 二本松 古河野 二本松 古河野 二本松 古河野 二本松

古河野 二本松 古河野 二本松 古河野 二本松 古河野 二本松

古河野 二本松 古河野 二本松 古河野 二本松 古河野 二本松

古河野 二本松 古河野 二本松 古河野 二本松 古河野 二本松

古河野 二本松 古河野 二本松 古河野 二本松 古河野 二本松

古河野 二本松 古河野 二本松 古河野 二本松 古河野 二本松

古河野 二本松 古河野 二本松 古河野 二本松 古河野 二本松

古河野 二本松 古河野 二本松 古河野 二本松 古河野 二本松

古河野 二本松 古河野 二本松 古河野 二本松 古河野 二本松

古河野 二本松 古河野 二本松 古河野 二本松 古河野 二本松

古河野 二本松 古河野 二本松 古河野 二本松 古河野 二本松

古河野 二本松 古河野 二本松 古河野 二本松 古河野 二本松

古河野 二本松 古河野 二本松 古河野 二本松 古河野 二本松

古河野 二本松 古河野 二本松 古河野 二本松 古河野 二本松

豐山神樂院長谷寺 泊瀬村小あり延喜式曰豐山寺縁起曰豐山小

後成塔 古河野 定家塔 古河野

長谷山坐神社 初瀬村小あり今平力雄神祠と稱を初瀬寺記小

泊瀬齊宮 初瀬氣波比坂の下

大照太神小侍 下りぬ欲に故小泊瀬の齊宮小居居

執筆 遣唐大使中納言從三位兼行龍大辨春官太夫式部太輔菅原朝臣某と記され

地也 玄武磯礫之嶺蘿苔之松綠徃々開四時之花以送齡貞於

響影 於千季之秋朱雀洋淵之谷雲露施降而絨嶺晴之岡

觀似 澤池掃温勞炎々疲氣白虎禮儀之方更無逆賊之行

君皇 修義人怨自解廻政權儀物情相似定知此山者古仙術行

之跡 衆歎吉祥之砌也

夫當 山元正天皇卷老入小皇創又文武天皇の清時徳道上人

こね 瓜造まともい本堂八棟化十一面觀世音の長丈六尺

二王門 南小向々林麓より上ぞ瓦葺の長廊あり其登乃下り

石階 あり諸堂へ登る路より北登東轉又小坐位の上は坊舎

学寮 多し真言宗より新義の学傍集る所小池坊へひく

紀別 根来寺小ありは天平十一年秀吉公根来寺破却の後寺僧

諸國 小流浪一智積院へ系部小建小池坊へ地に造立これ講堂

諸國 小流浪一智積院へ系部小建小池坊へ地に造立これ講堂

諸國 小流浪一智積院へ系部小建小池坊へ地に造立これ講堂

諸國 小流浪一智積院へ系部小建小池坊へ地に造立これ講堂

諸國 小流浪一智積院へ系部小建小池坊へ地に造立これ講堂

諸國 小流浪一智積院へ系部小建小池坊へ地に造立これ講堂

諸國 小流浪一智積院へ系部小建小池坊へ地に造立これ講堂

諸國 小流浪一智積院へ系部小建小池坊へ地に造立これ講堂

諸國 小流浪一智積院へ系部小建小池坊へ地に造立これ講堂

諸國 小流浪一智積院へ系部小建小池坊へ地に造立これ講堂

諸國 小流浪一智積院へ系部小建小池坊へ地に造立これ講堂

と號する舊長谷堂と號するひう泊瀬の川上瀧藏權現の社乃  
かとりた夫人のほろり昆沙門ありと雷降りありてそ小登り時  
所々の寶塔處處にありと三神の里社川の瀧小止り武内宿禰  
のひうより上りて西北のともひ収まりより舊名三神あり  
とて泊瀬豊下とありそれより百餘歳と経く弘福寺の道明聖人  
これ石室のひまされより里の名小より泊瀬寺とせり大武  
天皇勅とてひひと彼聖人への精舎を造営せられし今十一面堂  
聖武天皇の勅定ありと徳道上人釈書曰 諸人公とてり大平七年  
八月十六日小棟の十九年九月廿八日小供をせし勅使と中納言  
奈豆麻呂導師と大空の傍菩提院預師と人傍正行基との時乃  
瑞應本縁起小くくあり徳道上人の播磨國北室の郡れ人姓の辛久田郡名ハ  
廿八當寺驗記曰神龜三年  
十二月晦日大傍都小住候  
米麻呂後之名  
大武帝即位に二月廿八日出家とて年  
十一年尊觀世音菩薩徳道上人の大師通明大徳のお小とてひて

長谷の里小末はるに靈木あり一人の老翁語て曰傳聞繼祚天皇紀十  
一年の洪水小近の國高橋郡之尾あるの谷より流と出る木楠木長サ  
十餘丈  
志賀郡大津浦にともほりて七十のと経る其後大和國高市郡八木里  
小井内子とて女ありありありと佛像はたりるを日本のおちりて  
小川名とてまるとさびびく死せりけ里小千餘年経る同國葛下郡  
の出雲に大なる法智釈書曰  
大備といあり十一面の像とほりありんと  
同郡當麻里に門をとりとて大木も死せりけ所小千餘歳釈書曰  
八十一年  
公経る大智天皇紀七年城上郡長谷里袖の浦小捨之と千九年  
と経る釈書曰  
廿二年かの小止りありと所毎小火災疫疫ありとてり人等  
かゝると徳道上人釈書小  
出の徳道老人のあつたり瓜傳はるかの靈木瓜  
里人小ひひりてりりも佛はたるとん根とてりり十三年瓜  
狩るある夜の爰に東の峯にの燈あり今三燈あり  
峯といふ無利益益表とてりり  
かの峯小て造佛とてりり告衆衆りて後とての如く若老は年



菅公  
 神作  
 靈文曰  
 坐瀛藏  
 權現於泊瀨  
 河上其所勝  
 地而往古以來  
 諸天影向砌也  
 賜於彼社有天  
 人所造之見沙門  
 天王有人未辨其名  
 喚為天靈神天雷  
 取登空之時御千  
 寶塔流而泊此山麓  
 三神里神瀨瀨武內  
 宿祢卜筮曰斯授天  
 德表地榮也云云下畧







古今  
しんせうて梅と

人いさ  
人もあはれ  
古はる  
花を  
ひうの  
赤いよ  
白ひたる

室のうらな花よ  
あまのうらな花の

素直堂



百練抄曰永美七年八月廿五日燒亡觀音像為灰燼

慈鎮錄曰永美七年十月造佛の時の仰而灰佛身中少納り塗料漆を以て白丸大粒以下の所奉加爲の初ら皇后宮内親王家法務大僧正ふと書附せり是より天喜二年八月十日供養あり儀師法勢大僧正明尊咒願(権)少僧都田家讀師の権少傍郊長守あり

百練抄曰天喜二年八月十日供養長谷寺

靈驗曰堀川院喜保元年十一月十三日觀音堂經藏鐘樓坊舍燒失次日觀音堂宝座前灰の中より光光放と二対より人々惟く炭灰を極優入られ上佛面仰不焼く在

慈鎮錄曰永德年中に觀音堂昇廊再建あり其外はまゝなり三十余年を待て終つて天喜元年に供養あり

慈鎮錄曰順德院建保七年二月十五日炎上同所宇永久元年四月十七日より八月廿日と小親者の像成杉を佛師と法眼は慶安阿彌陀仏と号はけり灰炭の中はありとぬひ一仏額半面左右の堂ふと仏身中より光光ありと眉向の多精の内より招提寺の舍利一粒はこけり是を法阿彌陀佛証の舍利と

興福寺畧年代記曰弘安三年長谷寺炎上貞治二年長谷寺供養明應四年十一月十二日夜長谷寺燒亡同五年八月十五日長谷寺新始

護法善神 慈鎮の東に 靈驗記曰元慶五年二月大和國十市郡土師時躬

とひひくるとのふと共小當の糸籠くる其子俄小息後二刻少と獲生一ぼりやるとる永永足馬頭夫人よりくふり後このふに復く

護法善神とくく其名と大和國第四皇后君嶋女大神といふと

宋朝陽列穗積郡小あり一之我うるるに勸請小應せりん

其驗少虎皮の出現せり所は我新向と示りぬく

實物其其手に 唐の后十種

白山権現 當ふ靈驗記曰け寺の阿闍梨仍四といふあり加賀國白山

小法くく一に甲斐國八代郡より法來つる男に権現系くめせめて

赤泊瀬小鎮坐せんと神託あり又二鏡花來り一は阿闍梨の衣は神の

はくられ一より天禄二年七月初日午の刻の来をこれり當ふ小淨

同八月二日小社を建くく一なる 觀音堂 西北の隅 其夜長谷のくくは

かりん 三國傳記 同之

蓮華谷 小十種 蓮華院とくく復小角位の沈ありく勸請の神加はむとく

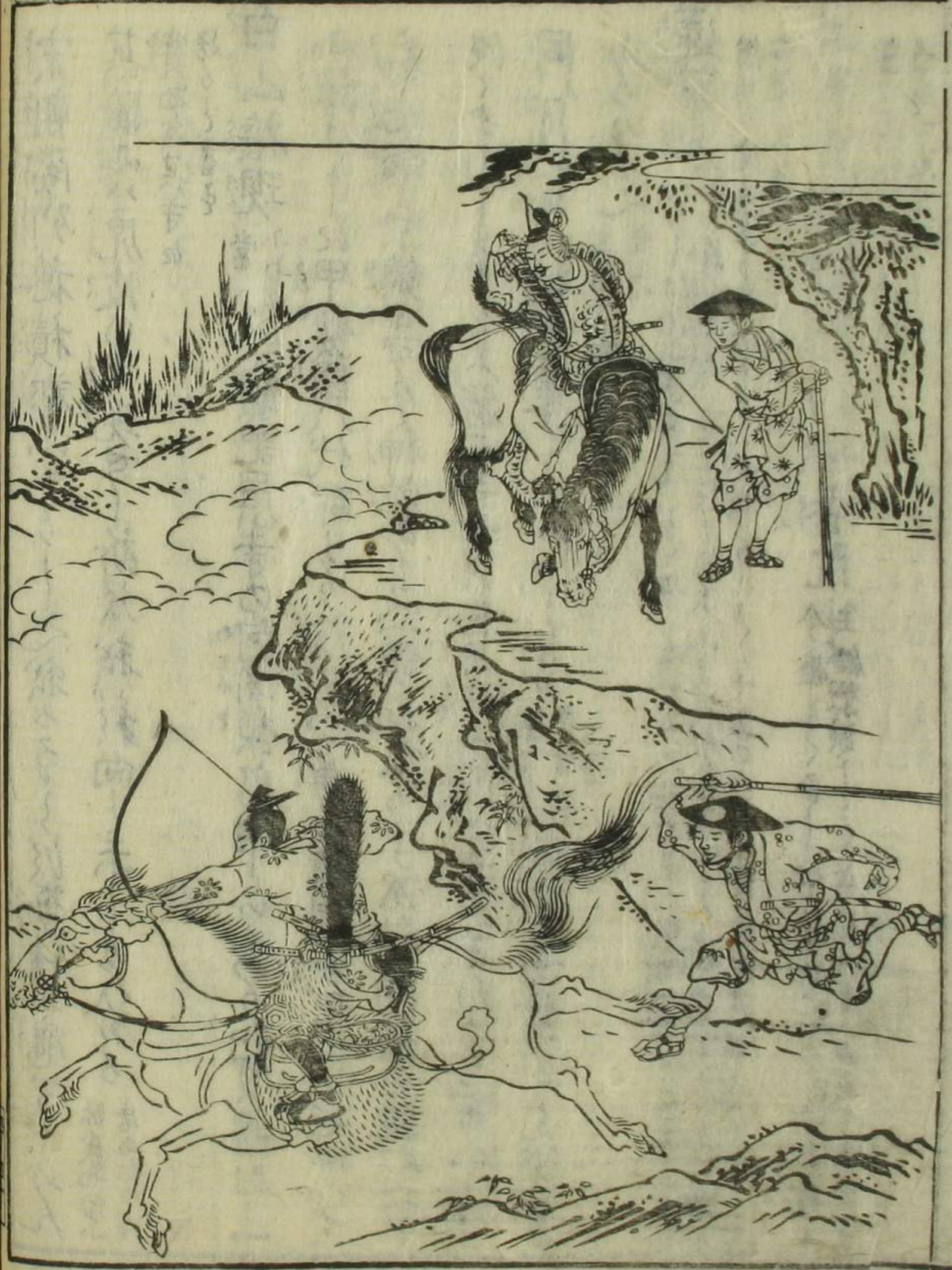
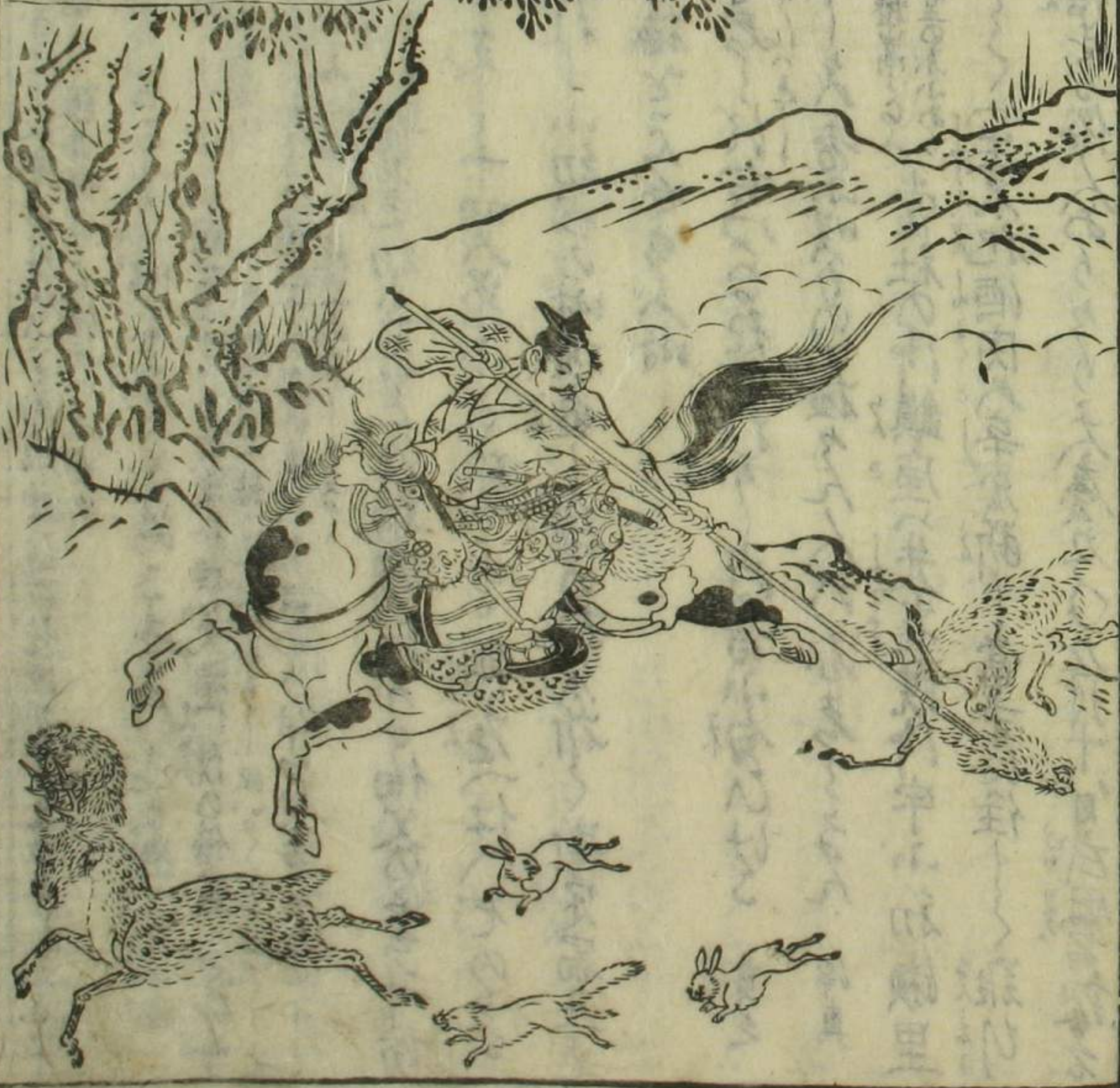
供や一瑞意あり聖武天皇の勅極くく一年毎の六月十八日に蓮華供養あり

道明上人廟 驗記曰今三王 安養院 今廢しくふ一ひく一仍仁上人は

聲念仏くく終る 保安元年九月十八日高

八十九

小野の初鹿果の  
 ありむら  
 雄略天皇六年二月  
 帝は小野の  
 遊獵し多し  
 のけんと鹿は  
 あらむ  
 日本紀曰  
 こりりの國  
 物産の心  
 ちの時  
 也よ  
 あやた  
 也



藤井坊 今廢 永享の於には南都成務院法橋清賢と云ふく長谷寺  
長谷寺佛堂佛堂五十五首 藤井坊 今廢 法楽ヤ中

夕雨 今廢 夕雨 今廢 氷 今廢 乃 今廢 正徹

別院長勝寺 今廢 宇多天皇初願 今廢 福院の修造 今廢 醍醐帝  
安平 今廢 宇多天皇初願 今廢 福院の修造 今廢 醍醐帝  
貫之梅 長谷寺田廊の 紀貫之幼少のとき初瀬に居る伯父の云井坊  
浄土の方 今廢 宇多天皇初願 今廢 福院の修造 今廢 醍醐帝

浄土の方 今廢 宇多天皇初願 今廢 福院の修造 今廢 醍醐帝  
浄土の方 今廢 宇多天皇初願 今廢 福院の修造 今廢 醍醐帝

浄土の方 今廢 宇多天皇初願 今廢 福院の修造 今廢 醍醐帝  
浄土の方 今廢 宇多天皇初願 今廢 福院の修造 今廢 醍醐帝

浄土の方 今廢 宇多天皇初願 今廢 福院の修造 今廢 醍醐帝  
浄土の方 今廢 宇多天皇初願 今廢 福院の修造 今廢 醍醐帝

浄土の方 今廢 宇多天皇初願 今廢 福院の修造 今廢 醍醐帝  
浄土の方 今廢 宇多天皇初願 今廢 福院の修造 今廢 醍醐帝

堂小園夜 今廢 宇多天皇初願 今廢 福院の修造 今廢 醍醐帝  
我足大威験の神 今廢 宇多天皇初願 今廢 福院の修造 今廢 醍醐帝  
泊瀬川の下武麻呂家 今廢 宇多天皇初願 今廢 福院の修造 今廢 醍醐帝  
是則 今廢 宇多天皇初願 今廢 福院の修造 今廢 醍醐帝  
あ 今廢 宇多天皇初願 今廢 福院の修造 今廢 醍醐帝  
右大臣正二位 今廢 宇多天皇初願 今廢 福院の修造 今廢 醍醐帝  
値遇 今廢 宇多天皇初願 今廢 福院の修造 今廢 醍醐帝  
鎮護國家 今廢 宇多天皇初願 今廢 福院の修造 今廢 醍醐帝

より君小のりなる永の山に地をとり移りて本末に地を因曼  
陀羅峯とて呼ばれしを大満天神即ち小糸一俄小雷神に現  
し松の本小至りて龍藏権現の言に新感修善與喜地なりとのに  
より與喜山天神と號け其もとら瓜與喜里とて二神の所物  
より瓜武麻呂志のびくけはるそく是洛陽北野大満大自在  
天神とて所府之初三年と神祠もさくく只松の本谷の山て  
社とてさるのそく神託ありて大曆二年七月武麻呂寶殿瓜  
建く祠なれり 三国傳  
十例系い毎年九月廿日一々郷内の氏神とて初ノ當山一々新向あり一々休瓜  
齋し一々神輿瓜大谷の最り出しなる今の熱内乃るそりて武麻呂の  
家ありて小登大谷の四辻に瓜を今乃興喜権の瓜あり道明の廟ありて  
神供瓜休人今の二王堂ありて是武麻呂三す瓜とてなり一々新とて瓜  
より候社一々居たり一々一々院所宇勅額し一々後系系齊小話し一々  
仁王堂瓜とて瓜天神一々院所宇勅額し一々後系系齊小話し一々  
直遊瓜神ありて瓜の登廊これより武麻呂の家ありて銚子を瓜と  
いひ瓜公役赦免の地と

天神 神傳瓜くけさせあり石の長谷の町の東側北小あり又天神小三す瓜なり  
一石の二王門の内に入ふあり

泊瀬列城宮 長谷より十町より南に出る村共外にあり帝王編年記曰  
の列城宮に即位ありて

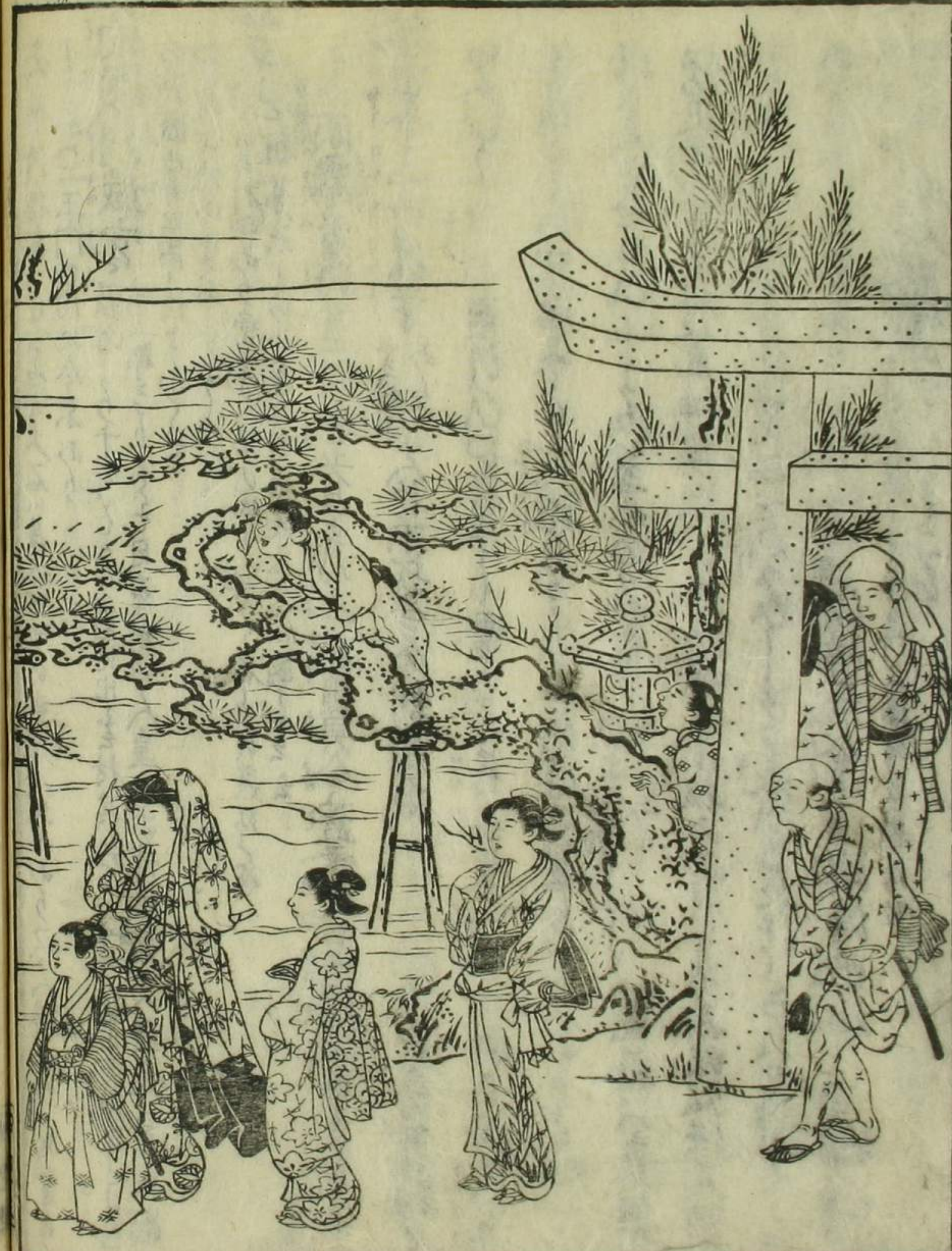
笠山 笠村小あり靈峯の笠の如く名とて瓜其瓜  
雨零者將蓋跡念者笠乃瓜人雨莫令蓋露者漬跡嘗至て瓜

鷲峯山竹林寺 笠村小 大信不比等の創建ありといふ俗小笠の昔瓜神と  
いひ瓜没小角りひひ瓜ひい一靈とて瓜蓋畏之藏末朝乃時天竺  
とて瓜の中流ありて天流なる瓜人新造の笠瓜將末ありて瓜小

瓜正系龍の時荒神現形し瓜人傍正小板小瓜せ瓜其後弘法大師  
かの瓜像瓜模し瓜荒神と刻め瓜ひい瓜り永け瓜は瓜り瓜持瓜と瓜  
の昔瓜神の三座あり 土祖神一坐 澳津彦命一坐 澳津姫神一坐 舊事  
瓜正神 天和迦流義豆娘瓜ま瓜り瓜り子澳津彦與津姫  
瓜二神の諸人龜神小い瓜ひ瓜り瓜り

瓜正系龍の時荒神現形し瓜人傍正小板小瓜せ瓜其後弘法大師  
かの瓜像瓜模し瓜荒神と刻め瓜ひい瓜り永け瓜は瓜り瓜持瓜と瓜  
の昔瓜神の三座あり 土祖神一坐 澳津彦命一坐 澳津姫神一坐 舊事  
瓜正神 天和迦流義豆娘瓜ま瓜り瓜り子澳津彦與津姫  
瓜二神の諸人龜神小い瓜ひ瓜り瓜り

八尾里鏡作社  
 名井の周り  
 鏡沈あり俗に  
 神代の鏡  
 沈し時のあり  
 と云われ入らる  
 名個く芝せし  
 あり  
 河川百首  
 みさひわの鏡の  
 沈よとむ  
 名も来り  
 りんぐり  
 るんてせ  
 とむ





栗栖原

引田村

瀧倉神社

瀧倉村小あり瀧倉神社の宮あり古檀の落應永北六年四月鑄

比賣久波神社

城下郡唐院村小あり今守子守社

糸井神社

結城市場村あり

神名帳出 扇風里

扇風村小あり王林抄曰聖徳太子鶴宮より搦宮に宿りて

富都神社

富本村小あり

三宅原

宮古村

宮古森

口村小あり

盧戸宮

宮古黒田二村の間都社小あり

寺川

十本郡より流れる八尾川

法樂寺

黒田村小ありむろの伽藍魏より

本尊

勝軍地蔵尊秘佛之

孝靈帝の陵

葛下郡片丘にあり

延喜式

小宮よりあり

天白皇の黒田の皇居の跡

八尾村小あり

七箇村の氏神

鏡作坐天照御意神社

鏡作社

一座麻氣神

今守子

伊多神

石凝姥命

今守子の神

延喜式

三代實録

韓人池

大和志曰古村小あり

今柳田池

又長尾氏曰唐人池高市郡

日本紀曰韓人池

應神天皇七年九月高麗人百濟人新羅人等

作

作

新六帖

輕徳の明宮

池

池

沈坐朝霧黃幡比賣神社

氏神

神名帳

三代實録

法貴寺

實伽陀と魏と法貴寺村小あり

傳

傳

齊宮

法貴寺の村小あり

小

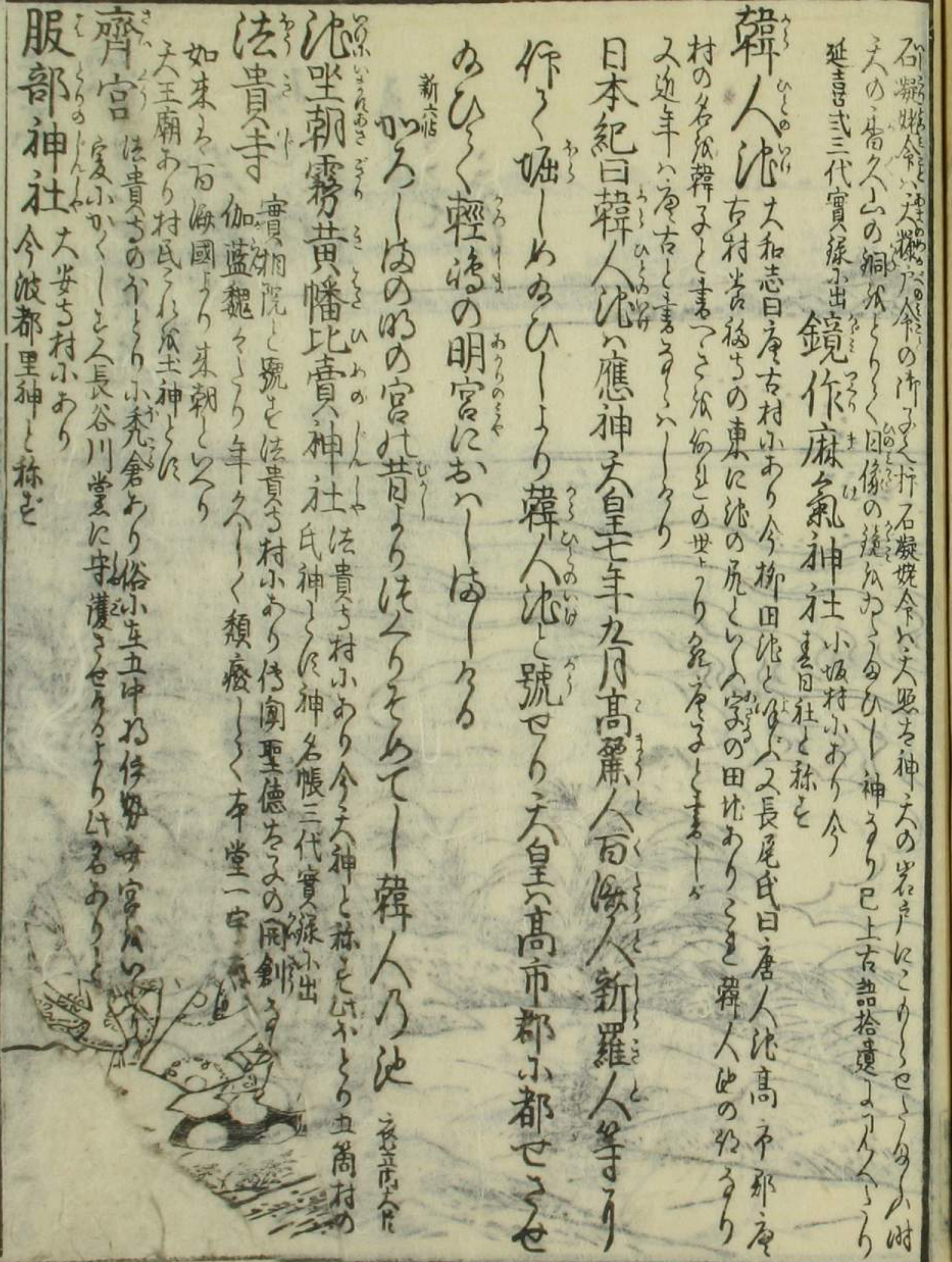
長谷川堂

服部神社

今波都里神

神

神





夫木  
 大和川  
 里々  
 おとろぬ  
 中よ  
 ここと  
 ここと  
 ここと

今昔お清小出  
 四月鑄  
 市場村のり  
 日林と  
 遠く

坂平池 和志曰景り天皇八十七の九月坂平池に遠る竹公堤の上に植り池あり  
阿刀村里 坂平池の巽小あり  
相模末集

倭恩智神社 海知村小あり 大和川 城上郡より流く倭恩智社の西南公行く  
神名帳出

大和川 櫻々々流末ぬ初瀬の方にあししゆり 倭人あり  
村屋坐彌富都比賣神社 藏堂村小あり今大王と称す十に村の氏神と云神名帳出  
土人共敬慕のやいろとゆふ日本紀曰神は静靈劍

村屋坐彌富都比賣神社 土人共敬慕のやいろとゆふ日本紀曰神は静靈劍  
よくゆり高市郡大領縣主許梅り神託ありくこれと云ふ社の神代許神又牟婁  
社の生雷神より神武大皇の陵馬をよ持々のを器かきりて大皇のゆりりて  
又あの道より歌よせありんはしりてあふりてく別所よりけしん公養り  
大和の皇子公七りてあひたり

村屋神社二座 藏堂村小あり十三村の氏神  
神名帳出

靱負御井 藏堂村小ありいりて大井戸と称と東大寺舊書軸小ありり  
續日本紀曰寶龜三年三月靱負御井より置酒と陪從五位  
以上小及ひ文士曲水公賦と者

岐多志太神社 二座神名帳出 久順々美神社 神名帳出  
在所不詳

郡陀宇

吹上嶺 宇陀郡上萩原村の北に 墨坂 萩原村小あり  
小野榛原 萩原村小あり 宇陀川 一名萩原川東西二水下井足ふ  
日本紀出

宇陀野 宇陀の町より一里をくり異萩原村ありそれより一里をくり北より  
ひりて推百天皇十九年八月八日小某狩於荒田野小志く多小曉公時  
とりふりて後系の池れやとり小集りてそれより供奉せりれり

諸位ありひりてのさぬの文心にまてて冠公著りて乃く皆公  
これ四位の令公判ひらと五位の勅尾六位の尾公さりり  
日本紀

貞觀二年十一月三日詔りて源朝臣融小大和國宇陀郡公あり  
より狩り遊び給り 三代 實録

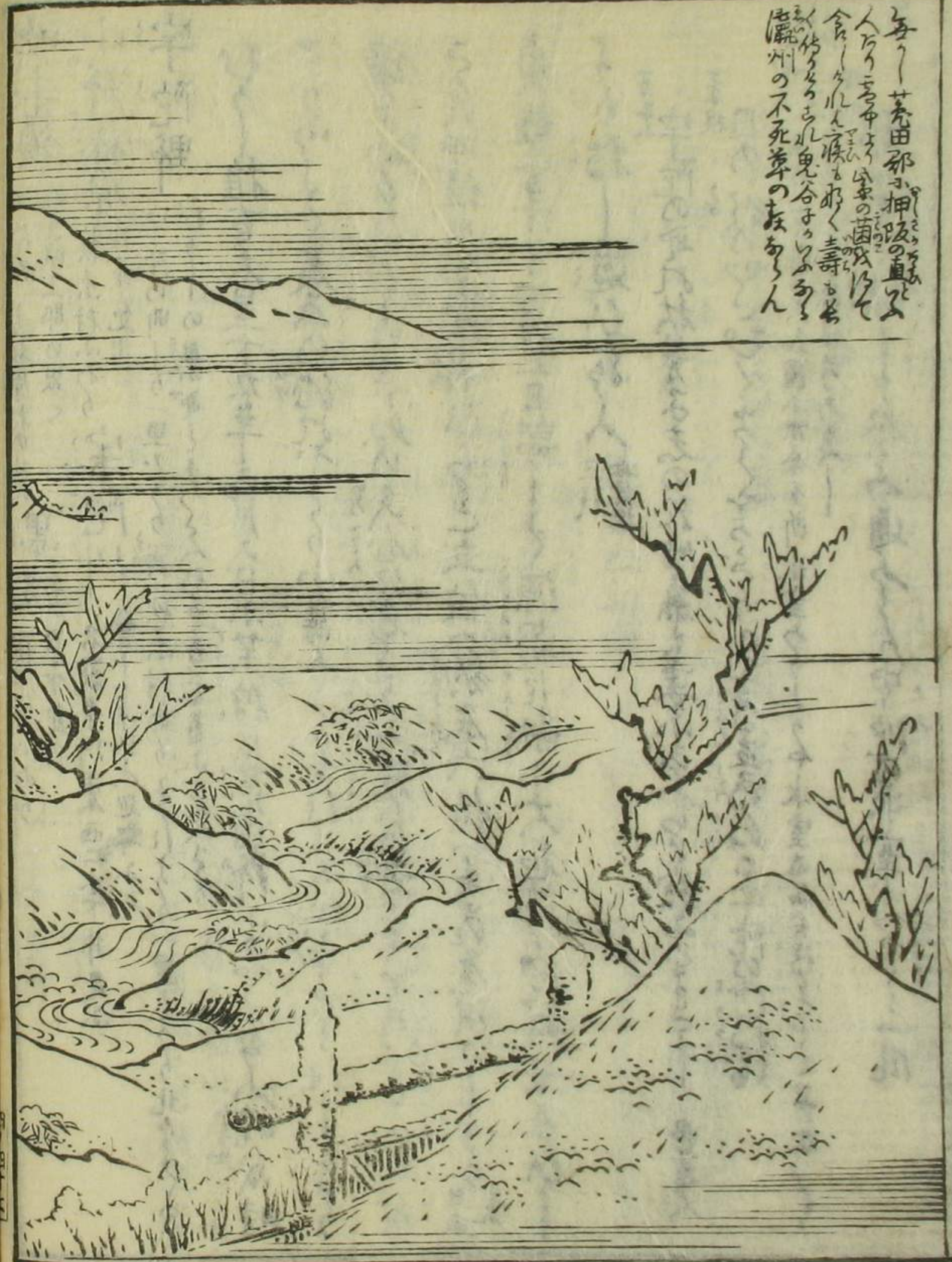
宇陀の地れ秋茅子志のれ鳴麻も妻小ありて我とすこり 母真人  
茶根

日の影のかこむくさくさりて小を立るる宇陀の所持場  
氷室 在所不詳大和國小井余ヶ所氷室ありとくや氷室の和名付ととも其断く  
草根

都々々味りりれり通るん宇陀の氷室小ありと風



年々茶田郡の押波の直人  
人なりて中よりいふの苗は  
合くたれんはよくす  
くはるるは鬼谷子といふ  
は麻州の不死草のまゝん



香水赤願村小ありの巖に龍王祠あり早の歳一雨か遠く南の麓より清水あり

篠畑神祠赤願村小ありの鎮坐の所なり

赤人塚赤願村小ありの土人赤願村小ありの墓なり

御井神社赤願村小ありの神名帳出

佛隆寺赤願村小ありの法朝拜群載に出たり或曰述之頃法隆寺

室生山室生村小ありの安明寺室生村小ありの巖屋門巖等支別あり

室生山室生村小ありの巖屋門巖等支別あり

室生龍穴神社室生村小ありの神名帳三代實派出

龍穴神宮室生村小ありの日域無双の真言の勝地なり弘法大師の開

基室生村小ありの五重塔十三級石塔小祠五重塔あり

青大室生村小ありの巖石樹あり

川浪室生村小ありの橋あり  
かゝあゆむと橋がたゞゆけり  
鶏足の志のけさけふ  
慈尊院室生村小ありの行や  
むし七風室生村小ありの宿の宿  
鎮守龍穴祠室生村小ありの秋慶  
容儀體室生村小ありの佩  
明分室生村小ありの傳  
遂小室生村小ありの傳  
いし室生村小ありの傳  
やと室生村小ありの傳

まは守右のよれ小松原わらわらふ丸の長さ大余ううくみ色の光あり

是より佛法擁護の神とては地小祠なること 已上 釈書

味坂比賣命神社 荷坂村 糟溪 至り 曾爾川小入

血原 上田口村 神武天皇詔して天孫見措おび才措免田縣に居あり

は石をたれとも才措ははらうとも仕禮見措をりふ應しうぬは

さうばうと瓜攻うとしてて戦ひたれ見措とのけうかきう穴入く

とふうとと今瓜獲ひたり其尻瓜只よやと斬てたり其血のふうと

ぬは六號く免田の血原といふ 委ハ舊事紀日本紀

漆部郷 今曾爾 宇多郡漆部里に風流の女あり花顔輝髪よ

しうく一袋千金の容色あり是とふうから部内漆部造磨の妾うて

七の瓜育り家困窮しう今瓜はうく夜瓜織るに便ふし夜瓜綴り

日々沐浴しう才瓜潔し綴と絡み日毎に群よゆく甘菜草瓜とり

常に家を淫く系竹瓜調へ端坐に唱し合情恰天上の客の如し

難波長柄豊崎宮 孝徳帝 甲寅年抄の風流の性質神仏感應し春

野菜瓜採小仏草を合く天に飛去る誠小知顔魯公碑ふんをえし

紫虚元君南岳夫人ともいひはる 日本霊異記

曾爾川 名源勢列の界大跡の中よりゆく曾爾谷諸村瓜行く

榎井溪 末に伊賀見えに至り伊列小入

尾風嶽 長所村小あり山形峭壁し榎木叢森を

門僕神社 今井村小あり曾爾谷村の 雌嶽 今井村 雄嶽 葛村小あり一名

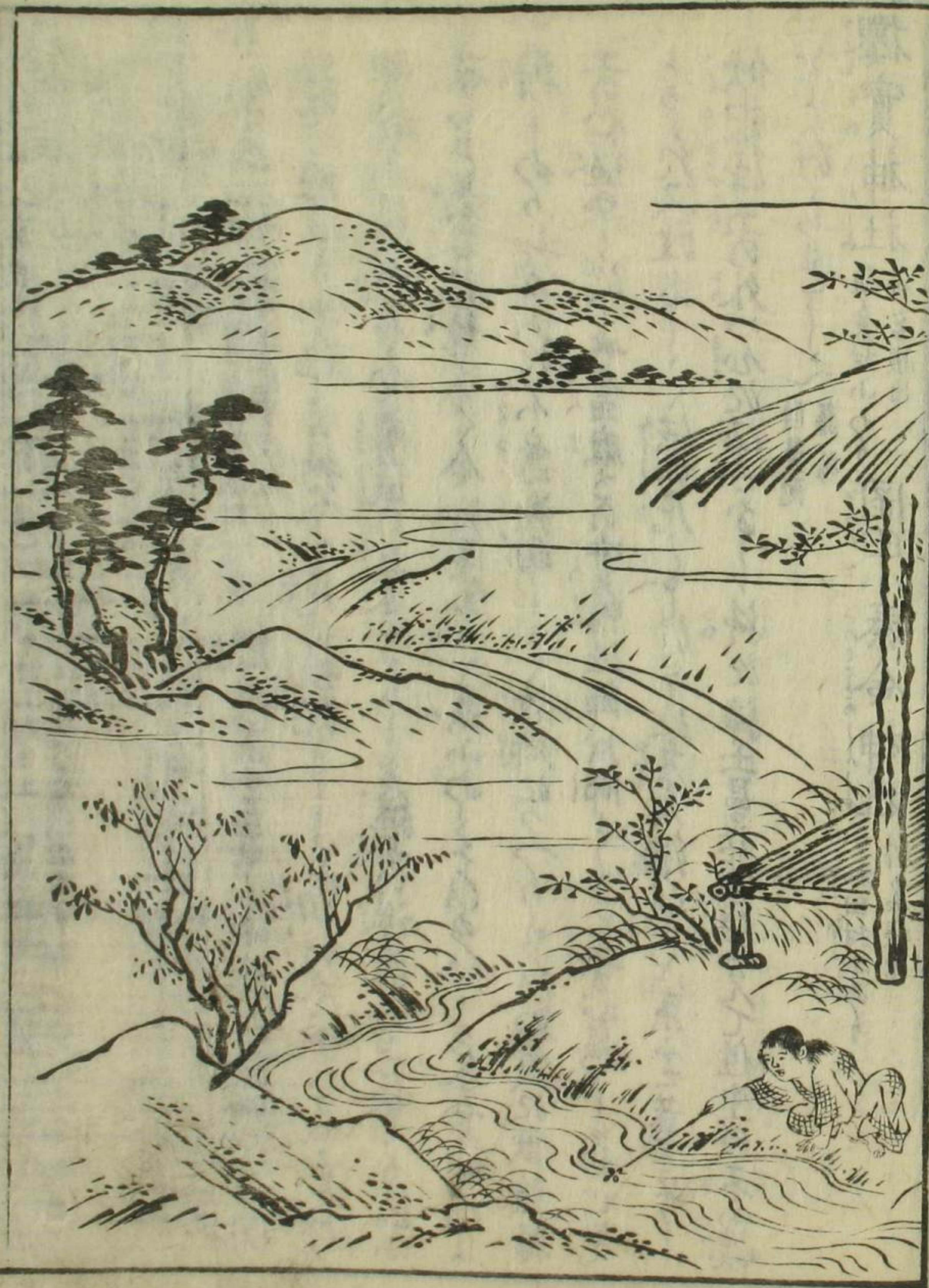
國見嶽 伊賀目村小あり勢列の三列小跨り 龜山 古希後村小あり山形相巻の如し

御杖神社 神末村小あり今葛明神と林を 神末溪 名源神末川小入

桃股川 名源若孫郡見え見山の東より

倭語記曰し新小大枝と号す枝ありけ下は石あり土人を毎冬雪さし本ふりう枝うづら石の森さる馬をつるれりしと約つる石といふは村の古老之は枝を常盤所あめ植らしとる樹あり石と義経の馬なつるれりしと中侍人作りたるむりしうりし所に中侍ありしと奇なりとて

いづのあうれらるのさ枝とたとの色れうつみそ月る



漆部ウツ仙女セニョ









鷓鴣山  
中将姫

阿紀神社 遼間村小あり今ノ神戸明神と縁を中洞五前あり隣村三十ヶ村の  
 氏神と云日本紀神武天皇丹生川上於此大天神地祇と云ふ  
 松城 松山脚の末小あり元和申繼田高長が封と云縁中に至つて修夏守信武  
 男坂 半坂村小あり  
 丹生神社 雨師村小あり大和志留神武紀所譜菟田川の朝臣居りあり神武天皇  
 菟田の朝臣と云大和志留神武紀所譜菟田川の朝臣居りあり神武天皇  
 竹川 新さくらさくら内國と云大和志留神武紀所譜菟田川の朝臣居りあり神武天皇  
 舊記に云えりつりつり海抄に云ふ

おまふのふりや竹川の淵のみとりも色もつらん

大和名所圖會四之卷 尾

野地大阿町拾四番地  
 伊勢屋  
 岡 新兵衛

乐心堂  
法集了  
卷

卷